

作品集

2022

(令和4年度)



令和4年度家族ふれあい大賞第26回「明るい家庭づくり（家庭の日）絵画展」

【家族ふれあい大賞 京都府知事賞】 入賞作品

「お父さん、おかえり」

宇治市立南部小学校5年 小野日菜子さん

小学生対象

令和4年度家族ふれあい大賞
第26回「明るい家庭づくり（家庭の日）絵画展」

主催/京都府 京都府教育委員会 (公社) 京都府青少年育成協会

中学生対象

第44回「少年の主張京都府大会」

主催/ (公社) 京都府青少年育成協会 京都府 PTA 協議会
京都市 PTA 連絡協議会 (独) 国立青少年教育振興機構

公益社団法人 京都府青少年育成協会

≪京都府青少年健全育成府民運動スローガン≫ 気づいてる？ あなたのまわりの あたたかさ

はじめに

(公社) 京都府青少年育成協会では、明るい家庭づくりや青少年の豊かな心を育むため、小学生を対象とした「家族ふれあい大賞」・「明るい家庭づくり(家庭の日) 絵画展」～「明るい家庭づくり」運動の普及啓発事業～、中学生を対象とした「少年の主張京都府大会」の二つの公募事業を行っています。

令和四年度家族ふれあい大賞・第二十六回「明るい家庭づくり(家庭の日) 絵画展」は、京都府と京都府教育委員会が令和二年度まで実施してこられた家族ふれあい大賞(絵画部門・写真部門)事業と当協会が実施してきました「明るい家庭づくり(家庭の日) 絵画展」事業を昨年度から一つの事業に統合し、小学生の目から見た家族や家庭内での微笑ましいふれあいを絵に表現することを通して、子どもたちの健やかな成長にとって家庭の役割の大切さを再認識することを目的として、京都府、京都府教育委員会と当協会の共催で実施しています。本年度は、一〇二校・八百二十九作品の心温まる絵画の応募をいただき、知事賞には、小野日菜子さん(宇治市立南部小学校五年生)の作品が選ばれました。入賞された作品二十三点及び佳作四十三点による入賞作品展を令和五年三月から府内二十四箇所で開催します。

第四十四回「少年の主張京都府大会」は、人格を形成する上で重要な時期にある中学生が、日常生活の中で感じていることや考えていることなどを自分の言葉でまとめ、それを「少年の主張」として広く訴える機会を設け、社会の一員としての自覚と行動を促していくことを目的として、京都府PTA協議会、京都市PTA連絡協議会、(独)国立青少年教育振興機構の共催で実施しました。本年度は、三十三校・五千百一編の素晴らしい作文の応募をいただき、事前の審査委員会(第一次・第二次)で入選十七編と佳作三十三編を選出しました。入選の十七名が令和四年九月二十三日に開法会館で開催した京都府大会において主張を発表しました。

京都府大会で京都府知事賞に輝いた太田真行さん(京都市立桂川中学校三年生)を京都府代表として、全国大会候補者に推薦し、国立青少年教育振興機構努力賞を受賞されました。

御応募いただいた小学生・中学生の皆さんをはじめ、事業の実施に御支援・御協力をいただきました学校や保護者の皆様並びに関係機関・団体の皆様、さらには熱心に作品の審査をいただきました審査委員の皆様方に心から感謝とお礼を申し上げます。

この冊子では、それぞれの事業で入賞された作品を紹介しております。御高覧いただき、小学生の抱く家庭の温かさ、中学生が日頃感じていることや考えていることをそれぞれの作品から感じ取っていただければ幸いです。

そして、これらの事業が応募いただいた皆さんの心の成長の一助となりますことを念願いたしますとともに、取組の裾野が広がり、青少年の健全育成の輪が一層広がっていくことを期待します。

令和五年二月

公益社団法人京都府青少年育成協会

会長 上田 静 男

令和四年度「家族ふれあい大賞」

第二十六回「明るい家庭づくり（家庭の日）絵画展」

◇概要	要	2
◇入賞者、佳作者一覧		3
◇入賞作品		4
◇講評		10

第四十四回「少年の主張京都府大会」

◇概要	要	11
◇入賞者、佳作者一覧		12
◇入賞作文		13
◇講評		30
◇第四十四回「少年の主張全国大会」	内閣総理大臣賞 受賞作文	31



令和4年度「家族ふれあい大賞」 第26回「明るい家庭づくり(家庭の日)絵画展」 ～「明るい家庭づくり」運動の普及啓発事業～概要

1 趣旨

「子育て環境日本一」の実現に向け、「明るい家庭づくり」運動の普及啓発など、京都全体の気運を醸成するため、家庭内での微笑ましいふれあいを絵画や写真に表現することを通して、子どもたちの健やかな成長にとって家庭の役割の大切さを再認識するとともに、子育て応援のメッセージを伝える取組として、作品の募集・発信を行います。

2 主催 京都府、京都府教育委員会、公益社団法人京都府青少年育成協会

3 後援 京都市・京都市教育委員会・京都市市町村教育委員会連合会・京都府小学校校長会・京都市小学校校長会・京都府私立小学校連合会・京都新聞・朝日新聞京都総局・毎日新聞京都支局・読売新聞京都総局・産経新聞京都総局・日本経済新聞社京都支社・NHK京都放送局・KBS京都・エフエム京都(順不同)

4 作品募集(絵画部門のみ掲載)

- (1)題材 親子や家庭におけるほほえましい雰囲気等を表現したもの。「画題(タイトル)」必要。
- (2)対象 京都府内の小学校及び特別支援学校小学部に在籍している児童。
- (3)大きさ 四つ切(38cm×54cm)、横書き
- (4)画材等 自由
- (5)厚さ 作品は画面から3mm以内であれば盛り上げ、貼り付けを可。
- (6)募集締切 令和4年9月12日(月)(当日消印有効)
- (7)応募方法 ①必要事項を記入した所定の「応募票」(*1)を作品裏面にのりづけして、各学校で取りまとめて、所定の「応募者名簿」(*2)を添付の上、京都府青少年育成協会事務局へ送付。
②個人の方は、直接京都府青少年育成協会事務局へ送付。
*1「応募票」及び*2「応募者名簿」は協会ホームページからダウンロードすること。また、絵画の応募は一人1作品で未発表、自作のものに限る。【HP <http://www.kyoto-seishonen.or.jp/>】

5 審査及び入賞作品等

(1)入賞作品等

【家族ふれあい大賞/3点】

京都府知事賞 京都府教育委員会教育長賞 京都府青少年育成協会会長賞 /各1点

【家庭の日賞/6点】

京都市長賞 京都市教育長賞 京都市市町村教育委員会連合会会長賞 京都府小学校校長会会長賞

京都市小学校長会会長賞 京都府私立小学校連合会会長賞/各1点

【まいにちがたからもの賞/6点】

毎日新聞社賞 読売新聞社賞 産経新聞社賞 日本経済新聞社京都支社賞 NHK京都放送局賞 エフエム京都賞 /各1点

【優秀賞/8点】

【佳作/43点】

(2)審査 審査委員会で入賞作品及び佳作を決定した。

(3)①審査委員会審査委員 (50音順・敬称略)

上田 静男(委員長)

荻原 博 材木 敏志 二宮 靖男 野田 千幸

法橋 秀明 吉田 詠子

②最終審査委員会審査委員(50音順・敬称略)

赤松 玉女(委員長)

作道 雄 水野 哲雄 永田 紅

6 表彰

令和5年2月25日(土)、京都ガーデンパレス「葵」において、入賞者(個別賞)の表彰を行い、会場内においては、入賞作品の展示を行います。

7 入賞作品展の開催

京都府内24箇所で開催します。

8 その他

(1)応募者には、参加賞を進呈します。

(2)入賞作品は、入賞作品等の巡回展示で掲示するほか作品集、明るい家庭づくり運動啓発カレンダー、啓発資料等に活用するとともに、協会HPに掲載します。(作品の活用時に、作品の画題及び学校名・学年・氏名を記載する。)

(3)入賞作品の著作権は、(公社)京都府青少年育成協会に帰属します。



令和4年度「家族ふれあい大賞」 第26回「明るい家庭づくり（家庭の日）絵画展」

入賞者・佳作者一覧

入賞作品は、(公社)京都府青少年育成協会のHPからご覧いただけます。
URL <http://www.kyoto-seishonen.or.jp/>



入賞者

賞	タイトル	氏名	学校・学年
<家族ふれあい大賞>			
京都府知事賞	お父さん、おかえり	小野 日菜子	宇治市立南部小学校 5年
京都府教育委員会教育長賞	大漁だ！家族でつりばり最高だ！	村上 穂乃歌	京田辺市立草内小学校 5年
京都府青少年育成協会会長賞	あっ、弟がはさまれちゃった！	松本 悠慎	城陽市立寺田南小学校 3年
<「家庭の日」賞>			
京都市長賞	大事なかぶと虫が成虫になったよ。	飯田 直央	京都市立正親小学校 4年
京都市教育長賞	桜のしたで おべんとう	跡部 紗彩	京都市立大塚小学校 1年
京都市市町村教育委員会 連合会会長賞	京の夏	伍 美 瑤	精華町立精華台小学校 4年
京都府小学校校長会会長賞	家ぞくでテントたてるのたのしいな！	山口 蒼衣	舞鶴市立新舞鶴小学校 2年
京都市小学校長会会長賞	かぞくでせかおわだんす	服部 楓磨	京都市立山階小学校 1年
京都府私立小学校連合会会長賞	ひいおばあちゃんのたん生日	大和田 龍園	京都女子大学附属小学校 2年
<まいにちがたからもの賞>			
毎日新聞社賞	とてもいい家庭	丸山 潤	精華町立東光小学校 3年
読売新聞社賞	大大大大好き	中嶋 夏海	木津川市立南加茂台小学校 2年
産経新聞社賞	キャンプは楽しいな	森 つむぎ	南丹市立園部小学校 2年
日本経済新聞社京都支社賞	絶景だ、みんなでしたよ股のぞき	添田 千暁	木津川市立相楽台小学校 4年
NHK 京都放送局賞	かぞくでいそあそび	竹内 華蓮	木津川市立城山台小学校 2年
エフエム京都賞	みんなで歌番組がだ～いすき	信濃 咲月	宇治田原町立田原小学校 2年
<優秀賞> (順不同)			
優秀賞	みんなでたべようかきごおり	飯田 花帆	京都市立正親小学校 1年
優秀賞	おいしいごはん いただきます	松本 雪乃	京都市立宇多野小学校 3年
優秀賞	山登り	山下 ひかり	長岡京市立長岡第七小学校 2年
優秀賞	ぼくにまかせとき！	塩田 賢志朗	京田辺市立普賢寺小学校 3年
優秀賞	ホテルいっぱい	大槻 紘可	木津川市立城山台小学校 1年
優秀賞	家族でプールに行った日	武田 彩花	木津川市立城山台小学校 2年
優秀賞	家族そろっていただきます！	杉山 友莉	精華町立精北小学校 3年
優秀賞	みんなで船もりを食べたこと	西村 榎乃	綾部市立西八田小学校 4年

佳作者 (順不同)

氏名	学校・学年	氏名	学校・学年
土屋 夏歩	京都市立元町小学校 4年	佐々木 夏珠	木津川市立州見台小学校 2年
井本 葵惟	京都市立椋野小学校 5年	西口 和希	木津川市立城山台小学校 1年
中瀬 桜汰	京都市立仁和小学校 5年	楠田 結菜	木津川市立城山台小学校 1年
宮原 百花	京都市立光徳小学校 6年	中村 珀登	木津川市立加茂小学校 3年
小倉 夏梨	京都市立錦林小学校 3年	岡野 紫咲	久御山町立東角小学校 1年
田畑 来実	京都市立北白川小学校 1年	守山 真ノ介	宇治田原町立宇治田原小学校 1年
山根 光生	京都市立百々小学校 2年	上田 橙馬	精華町立精北小学校 1年
平田 梨紗	京都市立広沢小学校 4年	野村 賢人	精華町立山田荘小学校 2年
濱崎 大輝	京都市立西院小学校 1年	武井 晴美	相楽東部広域連合立和東小学校 1年
増本 明咲	京都市立西京極西小学校 1年	東 理洋	相楽東部広域連合立南山城小学校 2年
中野 いろは	向日市立第5向陽小学校 6年	栗山 育実	亀岡市立つつじヶ丘小学校 1年
福田 実央	宇治市立三室戸小学校 5年	栗山 豪	亀岡市立安詳小学校 1年
二宮 柚希	宇治市立大久保小学校 3年	川崎 恵汰	亀岡市立畑野小学校 2年
大西 星那	城陽市立久世小学校 4年	中嶋 芽吹	亀岡市立千代川小学校 3年
植村 汐里	城陽市立寺田小学校 1年	中嶋 志帆	南丹市立八木東小学校 3年
松室 庵	城陽市立深谷小学校 4年	室谷 さら	京丹波町立丹波ひかり小学校 2年
鹿田 和義	八幡市立中央小学校 6年	荻野 明花	福知山市立夜久野小学校 2年
東出 鳳杜	京田辺市立田辺小学校 1年	石田 結梨	舞鶴市立倉梯小学校 3年
多賀 朱里	京田辺市立三山木小学校 3年	宮前 さくら	舞鶴市立中筋小学校 1年
眞弓 幸愛	木津川市立木津小学校 1年	藤原 野々華	宮津市立栗田小学校 1年
城松 優里	木津川市立高の原小学校 4年	上 羽 空	与謝野町立岩滝小学校 2年
島 永 寧	木津川市立梅美台小学校 2年		



—家族ふれあい大賞—

👑 京都府知事賞

「お父さん、おかえり」



宇治市立南部小学校 5年
小野 日菜子さん

👑 京都府青少年育成協会会長賞

「あっ、弟がはさまれちゃった!」



城陽市立寺田南小学校 3年
松本 悠慎さん

👑 京都府教育委員会教育長賞

「大漁だ!家族でつりぼり最高だ!」



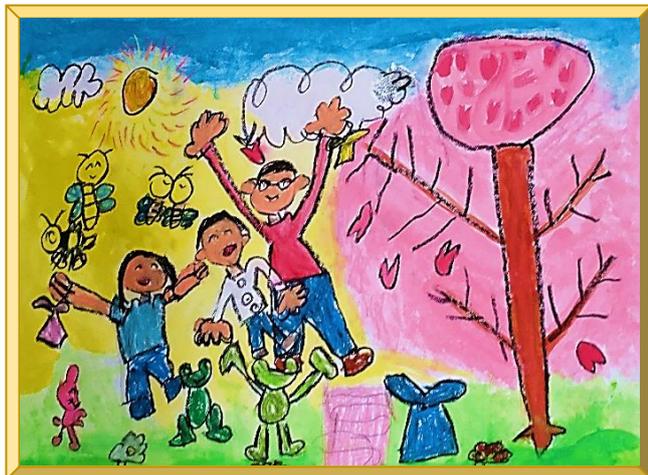
京田辺市立草内小学校 5年
村上 穂乃歌さん



—「家庭の日」賞—

👑 京都市教育長賞

「桜のしたで おべんとう」



京都市立大塚小学校 1年
跡部 紗彩さん

👑 京都市長賞

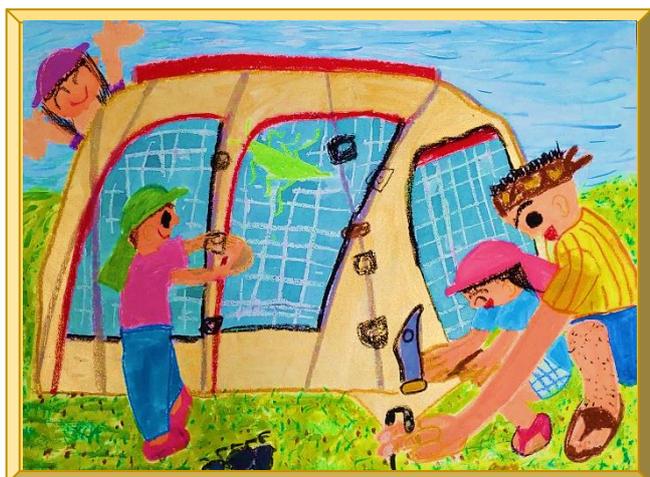
「大事なかぶと虫が成虫になったよ。」



京都市立正親小学校 4年
飯田 直央さん

👑 京都府小学校校長会会長賞

「家族でテントたてるのたのしいな!」



舞鶴市立新舞鶴小学校 2年
山口 蒼衣さん

👑 京都府市町村教育委員会 連合会会長賞

「京の夏」



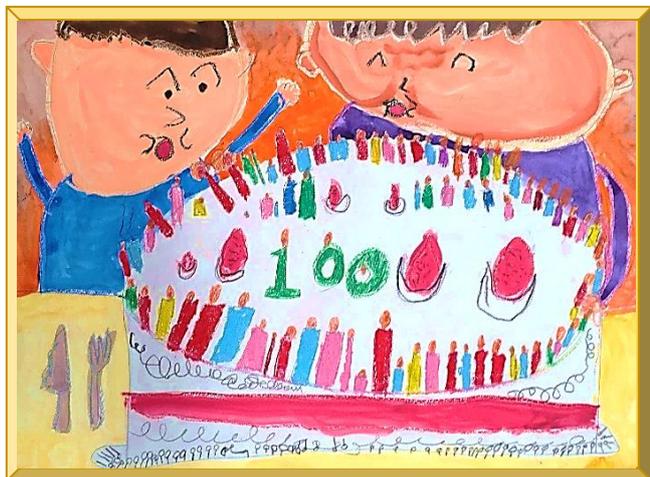
精華町立精華台小学校 4年
伍 美 瑤さん



—「家庭の日」賞—

👑 京都府私立小学校連合会
会長賞

「ひいおばあちゃんのたん生日」



京都女子大学附属小学校 2年
大和田 龍園さん

👑 京都市小学校長会会長賞

「かぞくで せかおわだんす」



京都市立山階小学校 1年
服部 楓磨さん

—まいにちがたからもの賞—

👑 読売新聞社賞

「大大大大好き」



木津川市立南加茂台小学校 2年
中嶋 夏海さん

👑 毎日新聞社賞

「とてもいい家庭」



精華町立東光小学校 3年
丸山 潤さん



—まいにちがたからもの賞—

👑 日本経済新聞社京都支社賞

「絶景だ、みんなでしたよ 股のぞき」



木津川市立相楽台小学校 4年
添田 千暁さん

👑 産経新聞社賞

「キャンプは楽しいな」



南丹市立園部小学校 2年
森 つむぎさん

👑 エフエム京都賞

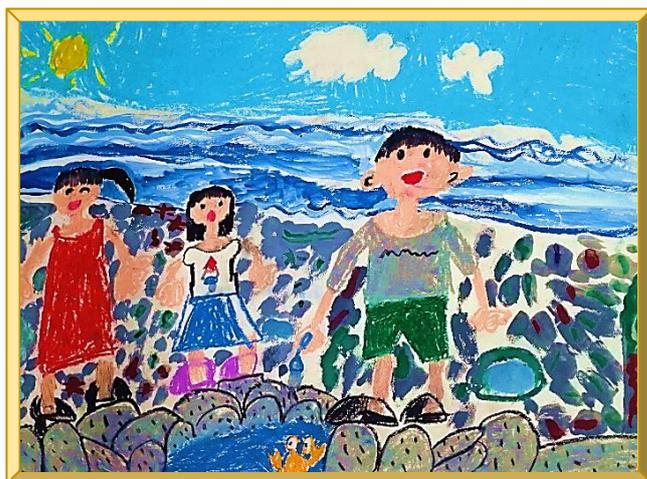
「みんなで歌番組がだ～いすき」



宇治田原町立田原小学校 2年
信濃 咲月さん

👑 NHK 京都放送局賞

「かぞくで いそあそび」



木津川立城山台小学校 2年
竹内 華蓮さん



—優秀賞—

「みんなでたべよう かきごおり」



京都市立正親小学校 4年
飯田 花帆さん

「おいしいごはん いただきます」



京都市立宇多野小学校 3年
松本 雪乃さん

「山 登り」



長岡京市立長岡第七小学校 2年
森下 ひかりさん

「ぼくにまかせとき!」



京田辺市立普賢寺小学校 3年
塩田 賢志朗さん





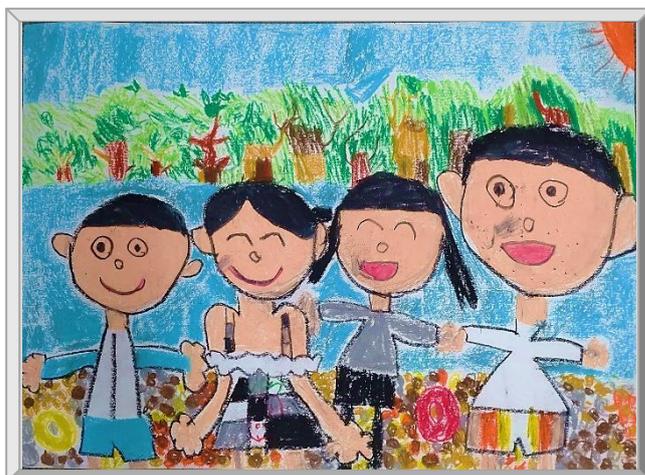
—優秀賞—

「ホタルいっぱい」



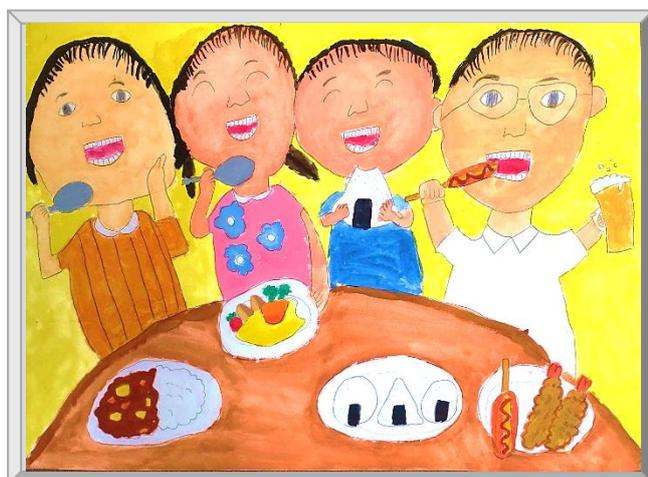
木津川市立城山台小学校 1年
大槻 紘可さん

「家族でプールに行った日」



木津川市立城山台小学校 2年
武田 彩花さん

「家族そろっていただきます」



精華町立精北小学校 3年
杉山 友莉さん

「みんなで船もりを食べたこと」



綾部市立西八田小学校 4年
西村 榎乃さん





令和4年度「家族ふれあい大賞」 第26回「明るい家庭づくり（家庭の日）絵画展」

講 評

子育て応援のメッセージを伝える取組として、平成15年度から実施している「家族ふれあい大賞」は、絵画と写真の2部門を募集してきましたが、昨年度より、絵画部門を公益社団法人京都府青少年育成協会が毎年実施されている「明るい家庭づくり（家庭の日）絵画展」と共催で実施されています。

新型コロナウイルスの影響は今年度も引き続きございましたが、3ヶ月半ほどの募集期間に、絵が839作品、写真が171作品、総数1,010作品の応募がありました。応募してくださった子どもたち、ご家族を始め、このコンクールにご協力いただいた皆様に心から感謝いたします。

絵画部門には、府内の小学校及び特別支援学校小学部に通う児童から、家庭でのほほえましい場面を表現した作品がたくさん集まり、作品ごとに家族のやりとりや笑顔が目に浮かびました。

審査に当たっては、描く楽しさが伝わる優れた作品や、色や表現に工夫を凝らした絵としての素晴らしさをしっかりと評価しつつ、この企画の趣旨である「明るい家庭づくり」「家族の触れ合い」をより感じさせてくれるものを選考しました。日常の様子、また特別な日のイベントを、子どもの目線で観察し、細かいディテールまで覚えて描いている様子に、家族と過ごす喜びや楽しさが伝わってきます。

近年はさまざまな要因から、家族の構成も、家庭の姿も多様になっています。デジタル化による社会の変化も加速しています。しかしながら、コロナ禍でマスク生活や感染予防の距離を余儀なくされると、家族と過ごす時間こそがかけがえのない体験であり、それを描こうとする子どもたちの気持ち、シャッターを切る家族の思いには、ライフスタイルが変わっても、あたたかい心の交差や家庭が果たす役割の大切さがあると改めて気付かされます。

今年度はコロナ禍に加えロシアによるウクライナ侵攻などの情勢も子どもたちの生活や心にも影響をおよぼしたであろうと思います。自分の中に積もったものを、絵や写真で外に向かって表現することで、心が開かれ風通しがよくなってくれればと思います。そして作品に表現された喜びが、より多くの皆様に伝わり、子どもたちと子育てする家族の思いに繋がり、今一度家族について考える機会にさせていただけたらと願っています。

京都市立芸術大学長 画家
赤松 玉女

第四十四回『少年の主張京都府大会』概要

1 趣 旨

少子高齢化、国際化、情報化が急速に進み、環境が目まぐるしく変化する現代社会において、次代を担う子どもたちには、心身ともに健康で他者を思いやる心を持ち、社会的に自立していける、健やかな成長が求められている。そのためには、広い視野と柔軟な発想や創造性などと共に、物事を論理的に考える力や、自らの主張を正しく伝え、理解してもらう力などを身に付けることが大切である。

少年の主張京都府大会は、子どもたちにとって、これらの契機となることを願って実施した。

2 主 催

(公社) 京都府青少年育成協会・京都府PTA協議会・
京都市PTA連絡協議会・(独) 国立青少年教育振興機構

3 後 援

京都府・京都府教育委員会・京都市・京都市教育委員会・京都府市町村教育委員会連合会・京都府公立中学校長会・京都府私立中学高等学校連合会・京都新聞・朝日新聞京都総局・毎日新聞社京都支局・読売新聞京都総局・産経新聞社京都総局・日本経済新聞社京都支社・NHK京都放送局・KBS京都・エフエム京都(順不同)

4 作文の内容

- (1) 社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案など。
- (2) 家庭、学校生活、社会(地域活動)及び身の回りや友だちとの関わりなど。
- (3) テレビや新聞などで報道されている少年の問題行動、大人や社会の様々な出来事に対する意見や感想、提言など。

5 応募対象

京都府内の中学校及び特別支援学校中等部に在籍している生徒。

国籍は問わないが、日本語で発表できることが必要。
なお、作品は一人一作品で未発表、自作のものに限る。

6 経 過

(1) 作文募集

令和四年四月下旬、募集要項及びポスター等を府内各市町村・市町村教育委員会、各中学校、青少年団体、関係機関等へ配布して募集

(2) 募集締切

令和四年八月一日(月) 応募総数 五千百四編(三十三校)

(3) 応募作文の審査

第一次審査委員会を令和四年八月十八日(木)、第二次審査委員会を九月一日(木)開催、入選十七編及び佳作三十三編を選定

(4) 「少年の主張京都府大会」

令和四年九月二十三日(金・祝)、本願寺開法会館「多目的ホール」において、本大会を開催十七名の入選者が主張を発表。審査の結果、京都府知事賞・京都府教育委員会教育長賞・京都府青少年育成協会会長賞・京都市教育長賞・京都府市町村教育委員会連合会会長賞・京都府公立中学校長会会長賞・京都府PTA協議会会長賞・京都市PTA連絡協議会会長賞・京都新聞賞・KBS京都賞の各1点を決定

〔第一次審査委員〕(五十音順・敬称略)

勝間喜一郎 杉本 勝

〔第二次審査委員〕(五十音順・敬称略)

野村 大輔(委員長)
上田 静男 東江 起欣 長谷川 正己
東谷 祐子 福田 昌弘

〔大会審査委員〕(五十音順・敬称略)

野村 大輔(委員長)
上田 静男 大澤 彰久 高田 敏司
東江 起欣 丹羽 寛美 長谷川正己
東谷 祐子 福田 昌弘

(5) 「少年の主張」全国大会への推薦

京都府知事賞を受賞された京都市立桂川中学校三年太田真行さんを全国大会候補者として推薦し、審査の結果、国立青少年教育振興機構努力賞を受賞された。

(6) その他

① 「少年の主張京都府大会」の模様をネット配信しています。

*当協会ホームページから
アクセスできます。



② 「少年の主張京都府大会」DVDを作成し、府内の中学校等に配布しました。

第44回「少年の主張京都府大会」

■入賞者・佳作者一覧■



入賞者 (発表順)

賞	テーマ	氏名	学校・学年
京都府青少年育成協会会長奨励賞 京都市町村教育委員会 連合会会長賞	広がれ!笑顔の輪	石田 陽香	向日市立西ノ岡中学校3年
京都府青少年育成協会会長奨励賞 京都新聞賞	自分ってどれ?	西村 天志	亀岡市立東輝中学校3年
京都府青少年育成協会会長奨励賞 京都府青少年育成協会会長奨励賞 京都府青少年育成協会会長賞	大切な人に 「私にとっての太陽」	藤本 明袖	舞鶴市立加佐中学校3年
京都府青少年育成協会会長奨励賞 京都府青少年育成協会会長賞	人間とペットの共存	栗山 侑夏	亀岡市立南桑中学校3年
京都府公立中学校長会会長賞	男女差別のない社会を 大江から発信! 寛容さにあふれる社会	齋藤彩央奈	舞鶴市立若浦中学校3年
京都府青少年育成協会会長奨励賞 KBS京都賞	ゲームから気づいた 勉強の大切さ	塩見 理桜	京都府立福知山高等学校附属中学校3年
京都府青少年育成協会会長奨励賞 京都府教育委員会教育長賞 京都市教育長賞	自分の良さ	真下 夏希	福知山市立大江中学校3年
京都府青少年育成協会会長奨励賞	考える力	高橋 紗依	宮津市立栗田中学校2年
京都府PTA協議会会長賞	だったらこうしてみたら? で夢は叶う	川上 璃桜	亀岡市立亀岡中学校3年
京都府PTA協議会会長賞	私の宝物	北畑 葵	向日市立西ノ岡中学校3年
		佐藤 春佳	亀岡市立南桑中学校3年
		高橋愛結羽	龍谷大学付属平安中学校3年
		石田美羽子	南丹市立美山中学校3年
		水嶋 奈緒	舞鶴市立城南中学校3年
		森本 絢衣	京都府立洛北高等学校附属中学校3年
		太田 真行	京都市立桂川中学校3年
		武田ことは	向日市立勝山中学校3年

佳作者 (順不同)

氏名	学校・学年	氏名	学校・学年
岡本 美歩	向日市立勝山中学校3年	辻村 亜美	宮津市立宮津中学校3年
荒尾 姫菜	向日市立勝山中学校3年	谷原 快	与謝野町立加悦中学校3年
長谷川 誉	向日市立勝山中学校3年	福山 咲里	与謝野町立江陽中学校3年
藤井 凜	向日市立西ノ岡中学校3年	堀口 彩	与謝野町宮津市中学校組合立橋立中学校3年
小妻 莉子	向日市立寺戸中学校3年	池田 真悠	京都府立洛北高等学校附属中学校1年
植田 柚衣	京田辺市立大住中学校2年	平原 史織	京都府立洛北高等学校附属中学校2年
藤井 莉愛	京田辺市立培良中学校2年	坂本 有彩	京都府立洛北高等学校附属中学校2年
垣口 都花	宇治田原町立維孝館中学校3年	山本 実和	京都府立洛北高等学校附属中学校3年
岩崎りあ	亀岡市立南桑中学校1年	藤井 千真	京都府立南陽高等学校附属中学校1年
入江千咲葵	亀岡市立南桑中学校1年	高本 心	京都府立南陽高等学校附属中学校3年
西山 果凛	亀岡市立東輝中学校1年	中村 美涼	京都府立園部高等学校附属中学校1年
安川 白統	亀岡市立東輝中学校2年	岡 なずな	京都府立園部高等学校附属中学校1年
岡本 一花	福知山市立夜久野中学校2年	小林知奈未	京都府立福知山高等学校附属中学校1年
藤澤 真桜	舞鶴市立青葉中学校2年	椿井 彩花	京都府立福知山高等学校附属中学校2年
荒木 柊人	舞鶴市立白糸中学校3年	野崎 萌奈	京都府立福知山高等学校附属中学校2年
濱本 悟郎	舞鶴市立和田中学校3年	山本 芽咲	京都光華中学校2年
鉄尾 美紗	舞鶴市立城北中学校3年		

京都府青少年育成協会会長奨励賞

「広がれ！笑顔の輪」

向日市立西ノ岡中学校 3年

石田 陽香



「許し難く、悔しい。」
「裏切ってほしくない。」
これらは、窃盗被害を受けた無人餃子販売店を運営している方のお言葉です。私はネットニュースでこの事件の記事を読み、とても悲しくなりました。

皆さんは無人販売所で買い物をしたことがありますか。この無人販売所は今、コロナ禍による非接触・非対面ニーズの高まりによって、需要が拡大していると言われています。無人販売所は、人件費が削減できる。二十四時間販売が可能になる。人目を気にせず買い物ができるなど、生産者にとっても消費者にとってもメリットがあり、人気になっています。しかし、誰

も見ていない」。これを利用した窃盗事件が全国で相次いで起こっているのが現実です。

無人販売所。このシステムは、「生産者と消費者の信頼関係によって成り立っている」と経営している方は語ります。生産者は、自分が丹精込めて作った商品を取られてしまうかもしれないというリスクがあると知りつつも、お客様を信じて商品を提供しておられます。そして私たち消費者は、誰が作った物なのかわからないということも承知の上で、生産者を信じて商品を購入します。双方の信じる気持ち、どちらも失われてはならないものです。片方でも失われると、無人販売所は成り立たなくなってしまう。ですが、他人を信じるといことは、簡単にできることではありません。

私には、野菜や果物を育てることが大好きな祖父がいます。祖父は毎日、朝早くから家の畑で収穫や水やりなどの作業をしています。このような苦勞をして一生懸命育てた作物を私が食べる。祖父はとても喜び、太陽のような優しい笑顔を見せてくれます。私は祖父のそんな笑顔が大好きです。祖父の笑顔は、いつも私を幸せな気持ちにしてくれます。「自分が大切に育てた物を美味しく食べてもらえること、これが生きがいやわ。」こんなふうに、祖父は以前言っていました。このことは祖父だけではなく、全ての生産者の方に当てはまるのではないのでしょうか。

最初にご紹介した無人餃子販売店の方の、

「許し難く、悔しい。」
「裏切ってほしくない。」
これらの言葉は、経営者の方の二つの気持ちが入り混じったものだと思えます。一つは、「一生懸命作った商品を盗むなんて許せな

い」という容疑者に対する怒りの気持ち。そしてもう一つは、「商品を購入してくれたお客さんに美味しく食べてほしい」「小さな幸せを届きたい」などといった、消費者を信じる気持ち。裏切られたことに対する悲しみの気持ちです。私たち消費者が、窃盗事件を引き起こすことで、生産者の方の心が深く傷つけられてしまっているのです。私はこんなこと、あってはならないことで、決して許されてはいけない事だと思います。

祖父は以前、
「無人販売は絶対にしない。」
と、断言していました。商品が盗まれ傷つくことが嫌だからです。でも、私はもつと多くの方に、祖父が育てた野菜や果物を食べてもらいたいと思っています。祖父だっていろんな人に自分が育てたものを食べてほしいはず。私は祖父以外にも、こんなふうに思っている方が少なからずいらっしゃると思っています。私たちは、このような方たちが一人も存在しないような社会を目指すべきではないでしょうか。誰もが気軽に商品を販売でき、その商品を購入した消費者は笑顔になれる。そしてその笑顔を見た生産者は嬉しくなり、また頑張ろうと思え、笑顔になれる。このような笑顔の輪が広がれば、とても素敵だと思いませんか。

そのために私は、これから生産者の方にお会いできたら感謝の気持ちを伝えることを忘れないうようにしようと思えます。皆さんも一緒に伝えてみませんか。ここに笑顔で、
「美味しかったよ！」

京都市町村教育委員会

連合会会長賞

「自分ってどれ？」

亀岡市立東輝中学校 3年

西村 天志



友達の前の自分。家族の前の自分。一人のときの自分。皆さんは、本当の「自分」がどうか、知っていますか。僕は、中学生になり様々なことに興味や疑問を持つうちに、「自分という存在」に、思い煩わされるようになりました。

中学生の道徳に「がんばれ おまえ」という教材があります。高校に入り「おもしろいやつ」と人気者になった主人公ですが、本当は、皆の前でギャグを飛ばしている「おまえ」を、人前には出てこない「オレ」が演じているとい

う話です。友達といるとき「おまえ」と、一人であるときの「オレ」、どっちが本当の「自分」なのか葛藤する主人公に、共感を覚えたのは僕だけではなかったはずだ。

僕が最初に「自分」について考え始めたのは、ある夏の日のことでした。僕は、その日忘れ物をしました。しかし、そのことを特別心配したりはしていませんでした。ですがその後、教材をロッカーに入れっぱなしで授業を受けるなど、ミスが続けてしまいました。忘れ物を引きずっていたのかもしれない。その時、友達から何気ない一言を掛けられました。

「何かいつものおまえにしたら変だな」

その時から僕は、その言葉にとりつかれたようになりまし。少しでもミスをするとう自分に苛立ち、自分が自分じゃないような気がしたのです。「普段通りの自分」でなければ自分は周りから自分だと認められないとまで思うようになっていました。そして、その気持ちはだんだんとエスカレートしていきまし、何をしても誰といても、それが自分なのか分からないう、本当にこれは「自分」なのか、そんなことを考える日々が続きました。

そんなある日、僕はある言葉に出会いました。「天上天下唯我独尊」釈迦が誕生した時に言ったとされる言葉です。この言葉を聞いたとき、「この世界で自分だけが偉い」ということだと思ふ人も少なくないのではないのでしょうか。しかし、本当の意味は「天上天下にただ一人である、誰とも代わることのできない人間としてこの命のままに尊い」ということです。つ

まり、自分は自分でしかないということ。僕はこの言葉に救われました。真っ黒でどこに道があるのかも分からない世界に、一筋の光が差した気がしました。それまでずっととりつかれていた「自分とはどれなのか」という問いが、とても馬鹿らしくなつたのです。

自分が自分じゃない？そんなわけがない。自分の意思でずっと動いていくに。自分の振る舞いを決めるのは、自分でしかない。友達の前の自分。家族の前の自分。一人のときの自分。それぞれを別々の存在かのように勝手に錯覚していただけで、結局それは自分でしかない。誰よりも自分を見てきたはずの自分が、自分のことをまだまだ知らない友達のたった一つの言葉に因われるなんて、そんなおかしな話があつていいのかと・・・。

その日から僕は、今までずっと見てきたはずの景色が明るく見え、「自分」というものに自信がもてるようになりまし。ポーツとしている自分も、ちよつと無理している自分も、成功に喜ぶ自分も、自分の一面であり幅でもあり、可能性なのだと思えるようになったのです。

これからも僕は、様々なことに悩んだり疑問をもつたり壁にぶつかつたりと、生きている以上いろいろなことにつまづくことでしょう。それでも、自分を見失うことをせず、この世界にただ一人である誰とも代わることのできない人間であることを忘れずにいようと思ひます。人生の終わりまでずっと一緒に「自分」。そんな「自分」についてもっと知り、もっと考え、探し続けていきたいと思ひます。

京都府青少年育成協会会長奨励賞

「大切な人に」

舞鶴市立加佐中学校 3年

藤本 明 柚



私の父は、昨年七月に亡くなった。死因は肺炎だった。

亡くなる半年前の一月、父が急に倒れたと電話が来た。母が急いで父のもとへ向かった。家に残っていた私と兄もタクシーで病院へ向かった。病院で、母が待っている所へ行くと、母は鼻をすすっており、目も赤くなっていた。それを見て、私も泣きそうになった。しばらくすると、姉ともう一人の兄も駆けつけてきた。父の治療が終わるまで、不安でたまらなかった。父が治療室から出てきたときには、家族みんな父のそばによって泣いていた。

父が倒れた原因は脳内出血だった。父の意識が

戻って、家に帰れるまで回復したとしても、手足を動かせる可能性は低いと医師に言われた。それでも、父が家に戻ってくるができるのなら、私はとても嬉しかった。

父の入院中は、コロナ禍ということで、私も一度も会うことができなかった。母だけはたまに会いに行くことができていたので、そのおかげで父の状態を聞くことができた。母は、父はしゃべることではできなかったけれど、話しかけると少しうれしそうに笑っていたと教えてくれた。私はその話を聞いて、父の意識が戻ってよかったと安心した。しかし、それと同時にしゃべれないくらい大変な状態なのかと心配した。それでも私は「お父さんが帰ってきたら、なにをしたらいいんやろ。」とか、「車椅子生活なんかな。」とか「お父さんが帰ってきたらテレビ独占されて、見たい番組が見れなくなりそう。」など、父が帰ってきたら、のことをたくさん考えていた。

七月、病院から電話が来て、急いで車に乗り込んだ。車の中で、母が、「お父さんの呼吸が苦しそうらしい。」と言っていた。私はそれを聞いて、父は今、どんな状態なのか。これからどうなるのか。など、色々なことを考えていた。

急いで父のいる病室に行くと、父はもう亡くなっていた。結局、父が倒れてから、私は父と一度も話すことはなく、もう一度会うことができたのは、亡くなった後だった。

今ではとくに心の整理もついている。家族とも父の昔話や、もし父が生きていたら・・・など、笑いながら父のことを話している。けれど、私は父が倒れて、そして亡くなってから、たくさん後悔した。

私の父はとても厳しい人だった。例えば、食事中に姿勢を崩すだけでも叱られた。私は厳しい父に反発して無視をしたり、反抗したりしてたくさん叱られた。だから、父が仕事で不在の日は嬉しかったし、仕事が休みの日は残念だなと思うこともあった。

けれど、父が亡くなってから、そのことを後悔した。もつとちゃんと父と話しておけばよかった。わがままばかり言わなければよかった。と、たくさん後悔した。父は私を愛してくれていたし、厳しかったのも私のためだ。

私は父が元氣だったころ、父を避けていたくせに父に会いたい、と強く思うようになっていた。私にとつて大切な存在だったんだということを、父が亡くなってから実感した。

私はもう一度だけ、父に会うことができるのなら、「ごめんさい。ありがとう。」と一言だけいいから言いたい。もしそれを言うことができたならば、父は笑うのだろうか。今更考えても仕方ないことだけど、そういうことをたくさん考えてしまう。

皆さんには、もし大切な人と会えなくなってしまうようなことになった時、もつとああしておけばよかった。こうしておけばよかったと、後悔するようなことはしないでほしい。あなたを大切に思ってくれている人、あなたにとつて大切な人の時間をしっかりとかみしめて過ごしてほしい。言葉にして言いたいことを伝え、後悔しない道を進んでほしい。私もこれから、大切な人との時間をかみしめ、後悔しない道を進んでいきたい。

京都新聞賞

「私にとつての太陽」

亀岡市立南桑中学校 3年

栗山 侑夏



私の大切な人は、太陽のような人です。いつも笑顔で明るくて、娘の私のことを中学生の子どもとしてではなく、一人の人間として見、関わってくれました。悪いことをしたら叱ってくれ、良いことをしたら自分のことのように喜んでくれました。私にしたいことがある時は、やり遂げるまでずっと見守ってくれました。その人に応援されるだけで、私は自信を持って進むことができました。中学校の入学式で私が代表の挨拶をした時も、小学校の児童会の活動でみんなの前に立って発表した時も、最後まで見守り応援してくれました。

しかし、その人、母は、もういません。昨年

月に亡くなりました。何かあったらいつでも一番に相談してきたのに、今は話すことも触れることもできません。母は病気にかかり、元気になるとうと治療を続けました。苦しむ姿や泣いている姿はほとんど見せず、最後まで気丈に病気と闘った母でした。

母が病気だと知ったのは、私が中学一年の夏のことでした。入院が決まっても、私にはその深刻さがよく分かりませんでした。コロナ禍での入院だったので面会はできず、母とは毎日電話で話しました。家族に対しての愚痴、学校であった嫌なこと、ついていけない勉強があつて困っていることなど、止まらない私の話を、母は聞き続けてくれました。今を生きるのに必死だったはずの母は、かけがえない命の時間を、私のために削ってくれたのです。

自宅療養で家にいる時の母は、病気になる前と変わらない笑顔で、私が落ち込んでいたりすると、こんな言葉をかけてくれました。「朝起きられただけで百点!」「人と比べなくていい。侑夏が前より成長していたらいいんやで。」母は、あたり前のことができているだけで、とても褒めてくれたのです。

中でも一番心に残っているのは、「侑夏は侑夏らしく生きや!」という言葉です。学校に行きたくなくて相談した、ある朝のことでした。普通なら、「そんなんあかん。」とか「早く行きなさい。」と言われ、怒られるのが嫌で仕方なく家を出る人もいると思います。しかし母は、「どうして行きたくないの?」と理由を聞いてくれ、「なら、今日休んだらどう良くなるの?」と言って私に考えさせてくれ

ました。その結果、「嫌なことから逃げたって何も変わらない。」と納得した私は、「やっぱり行こう。」と家を出たのです。その時母はにっこり笑って、「侑夏は侑夏らしく生きや!ずつと応援してる。」と言ってくれたのでした。他の人から見れば変な親かもしれませんが、そんな母が私は大好きです。いつも笑顔で、そこに居てくれるだけで周りの人を笑顔にし、生きているだけで百点だということとを教えてくれた母。最後まで生きることを諦めず、病気と闘って命の火を燃やし続けた母。痛み止めの薬で眠っている時が多くなつても、人は生きているそのことが尊いことを教え、病院より家で、私たち家族のそばで頑張ることを選んだ母。人の命の重さ、尊さ、そして、その終わり方まで教えてくれた母のことを、私は決して忘れません。

母と会えなくなつて、もう一年です。今年は中学三年生で受験生の私には、進路選択という大きな出来事も待っています。人がうらやましくなったり、不安になったりして、気持ちの晴れない日もあります。でも、そんな時ほど母のあの言葉を思い出します。「侑夏は侑夏らしく生きや!ずつと応援してる。」そうです。迷うのも悩むのも、私が生きていけばこそです。人と比べなくていいのです。私は私らしく、ゆつくり時間をかけて納得のいく答えを出していければ、それだけで百点満点なのです。母は私にとつての太陽、道しるべ。いつか母のようになれると信じ、これからも私は、心の中の太陽を頼りに前進します。

私の大切な人の話を聞いてくださった皆さん。皆さんの心の中に、太陽のような人はいますか。

京都府青少年育成協会会長奨励賞

「人間とペットの共存」

舞鶴市立若浦中学校 3年

齋藤 彩央奈



ペットを飼う。この言葉に私は違和感を覚えた。その違和感の正体は何なのか。追求することにする。「飼う」という言葉の辞書的な意味は、食べ物を与えて養い育てる、飼育するという意味であることが分かった。では、「ペット」とはどのようなものだろうか。

私は現在、二匹の猫と暮らしている。まさしくペットだ。ペットをものとして扱ったり、飼育するだけの存在だと思ったことはない。だから、ペットとして家で暮らしている動物の命に責任を持つことはもちろん、そのペットが幸せに暮らしていけるような環境を、これから作っていくことが必要だと考えた。私がこのような

考え方になったのは、やはり、「ペットを飼う」という言葉に感じる違和感からだ。なぜなら、「ペットを飼う」に繋がるのは「養う」という義務感であり、人間の所有物のように感じるからだ。

現に、犬や猫は人間の所有物のような扱いを受けている。その例の一つとして、ペットショップでの動物の販売が挙げられる。皆さんは、ペットショップで売れ残った犬や猫がどうなるか、知っているだろうか。

一般的なペットショップの場合、犬や猫を繁殖させて、それらを売るブリーダーに返還したり、実験用の動物として売却されたりする。今までは、たくさんの犬や猫が保健所に持ち込まれていたが、動物愛護法により、それをすることができなくなった。これは、良いことでもあるが、悪質なブリーダーに返還された場合は、「引き取り屋」に売られ、犬や猫が檻の中で死ぬまで放置される事態が起きてしまった。

私はこの状況を、絶対に失くしていくべきだと思う。このようなことが起きてしまう原因として、人間と犬や猫で命の重さの区別がつけられていないことが考えられる。誰もが知っている通り、犬や猫よりも人間の方が力が強く、知能も高い。だから、「強い立場にいる」という単純な理由で、たくさんの犬や猫の命が奪われてきた。しかし、この事態を真逆に向けることもできると思う。人間の方が力が強く、知能が高いからこそ、弱い立場にいる犬や猫を助けることができると考えたからだ。現状から考えると難しいことのように思えるが、動物の権利、福祉について考え、犬や猫の里親を探してくれる人や、保護して助けてくれる人もたくさんいる

ため、決して不可能なことではない。

実際に、ペット先進国と呼ばれる国々では、ペットショップで犬や猫を販売すること自体を禁止している。他にも、動物の殺処分施設がなかったり、自分でブリーダーの元へ行き譲ってもらったりする。さらに、「人間とペットが共存して暮らしていくために守る必要があるもの」という視点で、ペットに関する法律が定められていることがあるほどだ。

私はペット先進国では、犬や猫などのペットが人間と同じように守られていることに驚きながらも、強く共感した。だからこそ日本でも、犬や猫を守る取組を進めていくべきだと思う。これが実現すれば、「ペットを飼う」という言葉に違和感を持つことがなくなるのだと考えた。ペットを家族として迎えた人達が、皆当たり前に命に責任を持ち、大切にできるようにするからだ。

私は、ペットの権利、福祉の向上を実現させるために、今一緒に暮らしている猫を、何よりも大切にしようと思う。災害が起きた時に一緒に避難できる場所を探したり、絶対に家の外に出さないようにしたりするなど、まずは小さいことから始め、継続していきたい。また、新しく犬や猫を迎える際には、里親を探している保護施設に足を運んでみたいと思った。このように、犬や猫が犠牲にならないために、一人一人が今の現状に目を向け、意識を変えていくことが大切だと、私は考える。この主張を、少しでも多くの人に届けることができれば、今まで動物愛護について考えたことがなかった人にも、考える機会になるのではないだろうか。

京都府青少年育成協会会長賞

「男女差別のない社会を」

京都府立福知山高等学校

附属中学校 3年

塩見 理 桜



私の性別は女性である。私は生まれて十五年、性差別を経験したことがない。先日、歴史の授業で一九二五年に普通選挙法が制定されたと学んだ。普通という名前が付けられているにも関わらず、選挙権は満二十五歳以上の全ての男子のみであった。私は衝撃を受けた。女子に選挙権がないことがこの時代には「普通」であったのか。しかもその法律名を国が名付けている。これは国自体が当たり前のように男女差別を行っていたというのではないか。そこで私は母に「昔は女性差別があったんだって。」というのと、「あなたが知らないだけで今も差別はあるの

よ。」
といつてあるネットの記事を見せてくれた。そこには某大学の医学部を受験した女性たちが性別を理由に入試で不利に扱われたとし損害賠償を求めた裁判の記事だった。東京地裁は大学に対し支払いを命じた。その中の女性の一人が、
「医者への道を閉ざされて泣く泣く別の人生を歩んだということを忘れないでほしい。」とコメントをしていた。私は自然と涙が溢れてきた。私は受験というものは誰もが平等であると疑ったこともなかった。その女性は男性以上の点数を取っているにも関わらず夢を諦めたという事実があると知り、私はやるせない気持ちになった。将来私も同じような経験をするかもしれない。そう考えるだけで、生きることが怖くなった。
ではなぜ女性は差別を受けなければならなかったのか。理由として女性には妊娠、出産を経験し、職場を一時的に離れる人や辞める人が多く、また男性より体力がないという原因もあげられる。しかし、女性特有の病気などは女性医師の方が理解でき、患者も同性の方が安心して診察を受けることができる。また、妊娠、出産で仕事を離れることに対してはもっと国や自治体が働きやすい環境を整備しなければならぬと思う。個人レベルの問題として捉えず社会全体の問題として考えていく必要があると思う。

ふと思いついた。そこで、女偏の漢字を調べてみた。女偏の漢字には「嬉」や「始」などの良い意味を持った漢字も少しはあるが「嫉妬」や「媚」などの悪いイメージの漢字が多いことに気づいた。男女関係なく嫉妬もすれば人に媚びることもある。これは普通選挙法と同様に漢字が作られた古来から女性は軽視されていたということだと考えられる。いつそのこと男、女を含まず人編に変えたら良いのではないかと思った。
ここまで女性差別について考えてきたが、逆に男性は差別されていないのだろうか。男性も差別されている。例えば女性車両はあるのに男性車両はない。女性は痴漢被害を防ぐために女性車両があり安心して電車に乗ることができる。しかし、男性も痴漢の冤罪被害に遭うリスクもあり、男性車両を望んでいる人もいると思う。身近なところでは私の中学では女子は制服のスカートとズボンの好きな方を選べるが男性はズボンしか選択できない。これも差別とみなせるのではないだろうか。
しかし、この問題は考えていけばいくほど、男女差別と男女区別の境界線が曖昧であり、問題を難化させている。ただ言えることは、私は女性だから男性だからという理由で、何かを諦めるような世の中にはしたくない。女性でも男性でも得意なことあれば苦手なこともある。その人の特技や個性を活かして実力が発揮できる世の中にしていきたい。全ての人が未来に希望を持てる社会を目指して。

京都府公立中学校校長会会長賞

「大江から発信！
寛容さにあふれる社会」

福知山市立大江中学校 3年

真下夏希



皆さんは今、幸せですか。私は毎日がとても幸せです。なぜなら、学校に行っているいろいろな勉強ができた、友達と話したり、大好きな家族とおいしいものを一緒に食べたりできるなど、充実した毎日が送れているからです。日本では、衣食住に困らず生活できる人がほとんどです。また、「コロナ収束後に訪れたい国ランキング」で日本は一位と聞き、日本は本当に素敵な国なんだと思います。

そんな日本についてショッキングな記事を見ました。「世界の幸福度ランキング」で、なんと日本は五十四位なのです。誇らしきこの日本がなぜこんなに幸福度が低いのかと不思議に感じて

調べてみると「他者への不寛容さ」が挙げられていました。それはどういうことなのかを、自分なりに考えてみました。

この国ではSNSへの書き込みの問題がよくニュースになっています。自分の意見や考えと違うことについてひぼう中傷し、炎上することをよく耳にします。そのことに傷ついて自殺者が出るという悲劇まで起きています。スマホやSNSは便利なものだけど、思いやりのない言葉に不安を感じている人も多くいると思います。

自分のことに置き換えても私は学校で言いたいことがあっても、受け入れてもらえるか自信がなかったり、後で陰口を言われなかつと心配で、言うべきことが言えないことがあります。お互いに寛容的で安心してやりとりできる集団にはなれていないんだとつくづく思いました。

そこで私は、生徒会副会長として大江中のみんなが楽しく快適に安心して学校生活が送れる集団になるための活動をこの一年がんばっています。まず、生徒会本部で相談し、「Takeaction!」というスローガンを掲げました。みんな一人一人良い学校にしたいという思いがあっても行動に移せない弱さを克服しようという意味があります。

一学期のスタートでは挨拶や感謝を自分から表せる「感じの良い集団」になろうと提案し、「ラッキーセブン」という取組の名前をつけて、朝の挨拶、会釈、授業の号令、いただきます、ありがとう、来客の方への対応、そしてアイコンタクトという七つの項目に取り組みました。挨拶や感謝は言う方も言われる方も気持ちが良い、幸せな気持ちになります。全校の仲間もこのことを意識し

てくれるようになり、少しずつですが「感じの良い」集団へと変わってきています。

次に取り組んだことは修学旅行を楽しいものにする事です。私たちは「誰も傷つけない」という楽しさの条件を確認し合い、自分も仲間も行く先々で出会う方々も、誰一人嫌な気持ちにならない旅行を目指しました。そして行く先々で、「感じの良い集団」を振りまいて帰ってくる事ができました。これからもこの本当の楽しさと、感じの良い行動を生徒会活動を通して全校に広げていきたいと思えます。このような取組を通して、不寛容な行動が少なくなり、いじめや悲しい出来事がなくなつて欲しいです。

大江中の私たち仲間は卒業した後、いつかは社会人として各地に散らばることになります。が、「感じの良い集団」を作る発信者になっていけると信じています。

私は将来保健師になり、自分を必要としてくれる皆さんに幸せになつて欲しいと考えています。保健師は寛容な態度で人々に接する必要がある仕事だと思えます。これからも常に相手の気持ちを考えて、お互いに尊重し合える関係を作ることに努力し続けたいと思えます。そして、今の幸せがこの先もずっと続く自分でありたいと思えます。

最後に、五年度、十年後、皆さんがまちで感じの良い人を見かけたら、「あれは大江中学校の卒業生かな」と思っていただけだととてもうれい

京都府青少年育成協会会長奨励賞

「三年分の髪」

宮津市立栗田中学校 2年

高橋 紗 依



私は、小学四年生のときから昨年の夏休みまでの約三年間、誰かは分からないが、誰かのために頑張ってきたことがあった。それは、髪を伸ばすことだ。みなさんは、ヘアドネーションという言葉を知っているだろうか。ヘアドネーションとは、病気や事故などで髪を失った子どもへ新しくウィッグというものをつくるボランティア団体があり、そこへ髪を寄付することだ。私は三年間、自分の髪を寄付するために伸ばし続けた。寄付するためには必要な髪の長さは三十一センチと、とても長い。

私がヘアドネーションをしようと思ったきっかけは、私が小学五年生のときに妹がヘアドネー

ションをしたことだった。私は妹の頭から三十一センチ以上の髪が切り離されるのを見て驚いた。「すごい。」

長い髪が切り離され、妹の頭は一回り小さくなったが、なぜだかその背中はとても大きく見えた。その姿を見てから、私もヘアドネーションをしようと思った。最初の方は、ただ髪を伸ばせばいいと思っていた。だが、髪が長くなるにつれ、その重さは増し、手入れも一苦労、だんだん髪をのぼすことが大変になってきた。

そんな中、ある日母が新聞に載っていたヘアドネーションをした人について特集した記事を見せってきた。そこには、「一つのウィッグを作るのに、三十人ほどの髪が必要」と書かれていた。「三十人・・・。」

私は愕然とした。てっきり私は、一人寄付した髪で一つのウィッグが作れるのだとばかり思っていた。

「三十一センチじゃ足りない。」

この記事を見てから、また再び髪を伸ばそうという思いになった。毎日、毎日、目に見えないほどの長さしか伸びない髪だが、月に一度、母に首から下の髪の長さを測ってもらい、少しずつ伸びていることを知ることが、とても嬉しかった。

そしてついに、小学六年生の終わりが、髪が三十一センチまで伸びた。とても嬉しかった。でも私は、

「もっと伸ばして、できるだけ長い髪を寄付したい。」

その思いが強かった。髪は切らず、その後も伸ばし続けた。そして、中学校に入学し、昨年の夏、長い髪で覆われた首はとても暑く、夏休み中に髪を切ることを決意した。美容院にカットの予約を

し、店に向かう途中の車の中、私は何とも言えない高揚感に包まれ、心臓が大きく動いているのを感じていた。

ついに、髪を切る瞬間がきた。長くなった髪を結んでから、ザクツ、ザクツと切られていった。頭から切り離された髪を見たとき、今まで大変だったことを忘れるほどの嬉しさが込み上げてきた。結局、短いところで三十五センチ、長いところで四十三センチの髪を寄付した。

私は今まで、ボランティアなどはやったことがなく、ここまで明確に、誰かのために何かをしようと思ったのは、今回のヘアドネーションが初めてだった。私は、ヘアドネーションという体験を通して様々なことを感じた。髪があるということのありがたさ、そして誰かの役に立てたということの嬉しさだ。この話を聞いている人の中には、「そんな、ただ髪を切っただけで」と思う人もいるかもしれない。しかし、「そんなこと」で社会の役に立てる、人の役に立てると考えたとき、ボランティアや人の役に立つということが、すごく身近なものに感じた。

髪を切った後、ヘアドネーションを受け取った人の記事を見つけた。そこには、ウィッグを付けるまでの苦悩と、付けた後の前向きな思いが書かれていた。私の贈った髪も、誰かの助けになれただろうか。記事の続きを読むと、ウィッグを待っている子供の数がまだ三百人以上いると書かれていた。この話を通して、一人でもヘアドネーションに興味を持ってくれたら嬉しい。そして、より多くの人が助け合いに参加しやすい社会になっていけたらと感じた。

助け合いにあふれた世の中を目指して、あなたにもきつとできることがあるはずだ。

KBS京都賞

「「非日常」の中で考えたこと」

亀岡市立亀岡中学校 3年

川上 璃桜



『シンパティカ・リモーネ』ー「親しみを感じる・人を惹きつける力がある」という意味のイタリア語で、忙しい日常から離れてゆつくりとした時間を過ごしてほしいとの願いが込められています。音の響きがよく、すてきな名前だと思いますか？

料理を作ることが大好きな父が、「自分が作った料理で人を笑顔にしたい・喜んでもらいたい」という夢を実現させたお店が『リモーネ』です。お菓子作りが好きな母と二人で私が生まれた翌年にオープンされました。お店を始めた当初は、日々の仕事に不慣れであることや、一歳だった私に手がかかることなど大変なことの連続だった

そうです。しかし、これらはお店を始めるにあたって覚悟していたことであり、いわば両親にとっては「想定内」。それよりも、二年前突然世界を震撼させたコロナウイルス感染症の脅威は「想定外」の困難であり、小さなお店である『リモーネ』もこの影響を直にうけることとなりました。両親が夜遅くまで感染防止のために奔走する姿に、私も不安で胸が押しつぶされそうでした。

お店を守るために両親は様々な工夫を行いました。できることは何でも取り入れ、両親が奮闘する姿に私も刺激を受けました。コロナ対策として支給された国からの補助金に助けられたことも大きかったといいます。

連日流れてくるニュースに不安が加速され、コロナウイルス感染症による著名人の急死を伝える報道には大きな衝撃を受けました。私自身も新しく始まる中学校生活を楽しみにしていました。が、入学式の翌日から二ヶ月間も休校となりました。六月に学校が再開されたとき、「当たり前」だと思っていた日常が、ある日突然「当たり前」ではない。非日常になってしまったこともあるのだということを実感し、友達と再会できたときの嬉しさは今でも忘れられません。コロナ禍にあつて、両親が必死に守ろうとしたものは、おいしい料理に舌鼓を打ちながら、喜びや楽しさ、温もりを共有できる空間・時間であり、それが『リモーネ』なのだと思えるようになりました。コロナウイルスとの戦いは、二年の年月を経ても続いており、両親の奮闘も継続中です。コロナウイルス感染症の一刻も早い収束を待つばかりですが、一方で「コロナ禍がもたらしたものは脅威だけではなく、新しい生活様式に対応した新たなサービスや

新技術を生み出した。」という前向きにとらえる意見もあります。実際、キャッシュレス決済の普及や宅配事業の拡大、オンライン授業やリモートワークといった時間や場所に縛られない多様な生き方が提案され、悪いことばかりでもないという空気を感ずることもありました。しかし、やはり対面で授業を受けたり、友達と顔をあわせて語り合ったり、おしゃべりしながらお弁当を食べる日常がこいしいです。

以前、両親に「お店を継いでほしい？」と聞いたことがあります。そのときは、「継いでくれたら嬉しいけど、りらはりらの好きなこと、やりたことをすればいいよ。」との答えでした。でも今は、「自分は好きなことを職業にしたからどんな苦境にも耐えられるけど、自営業の不安定さを考えると・・・。」と父に笑顔はありませんでした。この時の父の疲れた表情から、コロナ禍による父の苦悩は思った以上に大きかったのだと痛感しました。「好き」を職業にした父ですが、食べていくためには利益をあげなくてはなりません。今回のコロナ禍により、多くのお店や企業が閉店や休業を余儀なくされました。どんな仕事にもリスクや困難は伴います。しかし、個人が営むお店が生き残るには、「努力」だけではどうにもならないこともあります。「自己責任」という言葉で片付けるのはあまりに悲しく、社会全体で支え合う仕組みを作れないでしょうか。そんな未来の実現に向けて、まずは社会の仕組みを学び、身の回りの矛盾に気づく力をつけたいと思います。そして、三年後、選挙権を得たら、社会の中の弱者に目を向けた政策を行ってくれる人に一票を投じたいと考えています。

京都府青少年育成協会会長奨励賞

「努力の意義」

向日市立西ノ岡中学校 3年

北畑 葵



私は、いつも思っていることがあります。
テスト返却の時、

「なんでそんなに賢いの。」 「羨みたいな頭が欲しい。」

授業中、

「なんでそんなに勉強できるの。」きつと悪気があつて言ったのではないと思いますが、私はいつも不満を抱きます。私だって頭がいいわけでもないし、なぜ勉強できるのかなんて、それなりの努力をしてきたからです。

私の友達に、

「自分馬鹿やから無理や。」と行って、すぐに諦めてしまう人や、「もう今からやっても変わらん

やろ。」と行って、そもそも手をつけようとしてない人がいます。でも私は、ちがうでしょ。と思います。自分馬鹿だからと言っている人は、自分の弱さから逃げているだけ。もう今からやってもと言っている人は、今から辛いことをする勇気がないだけ。そう思います。

私も小学生の時は、自分馬鹿だからと言って勉強から逃げて、楽しいことばかりしたり、賢い人とは頭のできが違うから仕方ないなど何かと理由をつけて自分を安心させていました。

そして中学生になった時、初めてのテストがありました。周りの人が休み時間を割いて勉強をしている姿を見た時、自分もやらないと。焦りを感じました。いざ勉強を始めると全然出来なくて、ああ、自分やっぱりだめなんだと努力出来ない、そんな情けない自分に失望しました。そんな時、私はある言葉に出会いました。「努力に勝る天才なし」

皆さんこの言葉の意味はわかりますか。この言葉は、目標のために努力する人は生まれつき優れた才能を持つ人より秀でているという意味で、あるスポーツ選手の言葉です。

私はこの言葉に出会った時、気付きました。自分の本心にダメなところは、勉強ができるできないということではなく、努力が出来ない、する勇気のない精神的な所なんだ。自分は弱い人だと。

賢い人は、それなりの努力をしてきたから今の自分がある。勉強が出来ない人は、今まで逃げてきたから今の自分がある。すぐになりたい自分になれる人なんていないんです。だからこそ、努力が大切なんです。努力は自分を裏切らない。でも、自分で頑張ってきた、一生懸命努力してきたと思

っても、報われない時があります。その時は、まず自分を褒めてあげることが大切だと思います。そして、自分に厳しくもあるべきだと思います。自分が少しでも努力したということに満足しているだけでまだ足りていない人だと思います。なので、努力の仕方が間違っていないかを確認し、間違っていたら修正して次に生かす。そしてまだ自分にできることは無いかを探してやるというように、結果を受け止めて、これから自分がどう成長していくかが一番大切だと思います。

人間誰しも同じ事をずっとやり続ける事には、飽きを感じたりめんどうさを感じたりすることがあると思います。でも、そんな事があっても努力をし続けられる、して成功している人は本当に凄いなと思います。

私は今年受験生です。私と同じ中学三年生ももちろん受験生です。なので、一度立ち止まって考えて下さい。自分には賢い人のような頭がないからと言って諦めていませんか。もう今から始めてもどうしようもないと思いませんか。そうじゃ無いんです。今だからやるんです。今だから一生懸命努力するんです。そうやって自分を甘やかして逃げ道を作っていると、自分も成長しないし、周りの一生懸命努力している人に失礼です。

なので、今まで頑張ってた人、努力できなかった人は失敗しても、できなくてもいいからまずはやってみる、努力をしてみることが大切だと思います。今だからやろう。自分も努力して成長したい、と頑張って頑張ってみませんか。そうすればきっと努力の意義を感じることができると思っています。

京都府教育委員会教育長賞

「平和のバトン」

亀岡市立南桑中学校 3年

佐藤 春佳



「あなたにとって平和とは何ですか。」そう聞かれたら、皆さんはどう答えますか。「戦争や紛争のないこと」、「何の心配もなく、心穏やかに過ごせること」、「一人一人の人權が守られていること」など、色々な答えが返ってくると思います。二月末に始まったロシアのウクライナ侵攻により、毎日放映されるテレビニュースを見、ここ数か月、私は「平和」について考えずにはいられない毎日を送っています。そして、そんな日々の中で、「平和をつくり出すには、受け取ったバトンを次の人にもどのように渡していくかが重要なのだ。」ということに気がついたのです。

この五月、私は修学旅行で広島に行きました。

事前学習をして平和への願いを強めていた私達のところに、広島から話をしに来てくださった方がありました。八十歳という御高齢にもかかわらず亀岡まで足を運び、「将来日本が戦争しそうになつたら反対してほしい。」と語られたその方は、箕牧智之（みまき としゆき）さんという人でした。東京で生まれた箕牧さんは三歳で東京大空襲に遭い、家族で広島市に疎開され、八月六日を迎えられる。爆心地から十七キロ離れた自宅で雷のような光を見、広島駅で働いておられたお父さんをお母さんと捜しに出かけ、入市被爆されたそうです。髪がぼさぼさで衣服や肌がボロボロになつて歩く人達のこと。多数の遺体がトラックで運ばれ、山で焼かれていたこと。そして、心からの願いなのだと感じた、もう二度と核兵器を使つてはいけないということ。語られる話の一つ一つが胸に迫ってきました。

その箕牧さんの言葉の中で一番心に残つたこと、それは「憎まない」という思いでした。日本の代表としてアメリカに行き、核兵器廃絶の願いを語られたとき、箕牧さんはまず、日本の真珠湾攻撃の奇襲を謝罪されたというのです。そこから始めると、原爆を投下した側のアメリカの人達も、その後の話に耳を傾けてくださったそうです。箕牧さんは大空襲の恐ろしさも原爆の悲惨さ惨たらしさも、痛いほど知っておられます。その苦しみを与えたアメリカに、抑えられない思いを抱かれた日もあつたはず。しかし、相手への憎しみはさらなる苦しみしか生まないことを、誰よりもよく知っておられ、まず謝ることから始められたのです。「原爆を落とすのは最後にしてほしい。世界中から核兵器をなくしてください。原

爆に遭つた私達が生きているうちに。」そう言つて話を終えられた箕牧さんから私は、「相手を憎まないこと、互いに未来を見つめ語り合つていくことが、平和をつくり出す一歩になる。」という、大切なバトンを受け取つたのです。

講演の一週間後、修学旅行で行つた原爆資料館の出口付近で、私はまた箕牧さんにお会いしました。資料館の係の方に教わつた羽の動く折り鶴を持って、私の足は自然に箕牧さんの方へと向かい、「胸が痛くなりました。あんなにひどい出来事が、ここであつたんですね。」と話しかけていました。話しかけずにはいられませんでした。そのまま一緒に「原爆の子の像」のところまで移動し、みんなで作つた千羽鶴をブースに捧げ、箕牧さんにも入つてもらつて写真を撮りました。大切な懐かしい人に再会できた、有難い時間でした。八十歳のおじいさんと十五歳の私。広島と亀岡。同じ日本という国で今を生きていて、知り合うことになつた私達。そのまま関わることなく過ごしていつても何の不思議もなかつた私達が、広島で原爆ドームを背にして一緒に写真に収まつている。とても不思議でとても大切な出来事でした。

原爆資料館でいただいた被爆アオギリ二世の苗木は、学年のみんなで植えました。「相手を憎まないこと。許し合うこと。そこから始める対話が、平和の一歩であること。」箕牧さんから受け取つたそのバトンを握りしめ、これから先も私は平和を願い、出会えた人達に大切に大切にこのバトンを手渡していきたいと思つています。

京都市教育長賞

「思考をとめるな」

龍谷大学付属平安中学校 3年

高橋 愛結羽



「考えなさい。調査し、探究し、問いかけ、熟考するのです。」

あなたはこの言葉を知っているか。これはあのデイズニールランドの創設者である、ウォルト・ディズニーが遺した言葉だ。私は今の時代に必要な力は、まさにこの熟考する力だと思う。地球上で起きているあらゆる問題を解決するために、私たちは考え続けなければいけない。思考をとめてはいけない。

私が強くそう思ったのは、テレビでウクライナのニュースを見ていた時だ。ロシアのウクライナ侵攻が始まったときは本当に戦争というも

のが始まったのだ、という実感がなかった。それでも、時間が経つとともに私たちは現実に向き合わなければいけなかった。そこには確かに、今この瞬間も爆弾が投下されている。私は胸が張り裂ける思いになった。そしてそれと同時に、ただ見ていることしか出来ない現実にとっても腹が立った。戦争が始まってしまったというのに、加盟するの何年もかかる組織は、本当に意味があるのだろうか。そもそもどうしてこのような戦争が起ってしまったのか。いったいこの戦争は、誰が「悪」なのか。考えれば考えるほど混乱して、私は考えるのをやめてしまおうかと思った。そうすれば、ただ流れてくるニュースを見て「辛い、悲しい。」と胸を痛めるだけで良いからだ。

だけど私は思う、それではだめだと。私たちは、様々な理由をつけて思考をとめてしまっているのではないだろうか。それではいつまで経っても問題は解決しない。思考をとめてはいけない。

まずは、自分の抱く疑問が本当に正しいものかどうか、それを考えなければいけない。例えば私は、この戦争は誰が「悪」なのかという疑問を抱いていたが、その答えはきつと星の数ほどあるだろう。なぜなら、どちらも正義でどちらも「悪」だからだ。生まれた場所や環境、年齢や立場によって、一つの事実に対する真実は無数にある。だから、どちらが「悪」かという疑問は、正しい問いではない。

それよりも私たちは、戦争が原因の差別やイジメをなくすことを考えなければいけないと思う。今、ロシアの人々やウクライナの親ロシア

派の人々に対しても、差別が起きてしまっている。私はそれが、悲しくてたまらない。これ以上戦争による被害を拡げてはいけない。戦争が原因の差別やイジメを無くすにはどうすればいいか。それを考え続けることが最も重要だ。

そしてもう一つ私たちが考えるべきなのは、日本に避難してこられた方々に何ができるかということだ。私は今まで、避難してこられた方々に対して、戦場から逃げるのができて少しは肩の力を抜けているのではないか、ここまで無事に避難することができて本当に良かった。そんな風に思っていた。だけど、避難された方々からは、まだ戦争の苦しみは取り除かれてはいない。言語の壁や生活習慣の違いが、彼らに日々辛さを与えている。そして何よりも、故郷を思い出して寂しくなったとき、頼れる人がいないということが一番辛いことではないだろうか。恵まれた社会に生きる私たちが、彼らにできることは何か。一人一人の意識が、やがて彼らの毎日を変えていけるかもしれない。そのため、考え続けなければいけない。

考えるという力は、私たちに与えられた最大の武器である。どんなに難しい問いでも、考えることを諦めてはいけない。考えることを他人に任せたいいけない。調査し、探求し、問いかけ、熟考すれば、いつか必ず自分なりの答えにたどり着く日が来る。だから私があなたに訴えたいことはただ一つ。

思考をとめるな。

京都府青少年育成協会会長奨励賞

「自分の良さ」

南丹市立美山中学校 3年

石田 美羽子



私は自分に自信がないせいで、考えを口に出したり、行動に移したりできず、いつも後悔ばかりしています。

二〇一八年十一月に満十三歳〜二十九歳までの男女を対象に「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」が実施されました。自分自身のイメージについて「そう思う・どちらかといえばそう思う」と回答した日本の若者は、「自身に満足している」が約四十五パーセント、「自分には長所があると感じている」が約六十二パーセントでした。これは同時に実施した他の先進国と比較して最も低い値であり、日本の若者の自己肯定感が他の国の若者のそれよりも

低いということがわかります。

日本には、控えめで慎ましいことを美德とする文化があります。人から褒められた時、「いえいえ、それほどでもありません。」とか「たいたことではありません。」という返答をすることが多いのが、その一例です。このように、控えめに振る舞い、自分の功績や能力をおごらない態度を「謙遜」といいます。必要以上に自分を評価することを避け、へりくだった態度をとることで相手への敬意を表し、高慢な印象を与えたり、嫌みに思われたりしないための日本人の生き方です。

謙遜を美德とする日本の文化のために自己肯定感が低くなっていると言いつけることはできませんが、自分の良いところをはっきりと良いと言わない考え方や姿勢が「自己肯定感が低く消極的だ。」と言われる日本の若者の欠点と少なからず関係しているのではないかと私は思っています。

では、自己肯定感とは何なんでしょうか。私は長距離が得意で、駅伝部に所属しています。練習では、自分に合ったペースで走ることを求められるのですが、実際は友達と同じペースで走っています。これは「自分だけがペースを上げて失速するのが怖い」と失敗することを恐れ、自分の限界に挑戦できない私自身の心の弱さが原因です。長距離が得意なはずなのに、周りに合わせて何となくその場をやり過ごすという消極的な姿勢になってしまうのは、自分のペースで走り切ることに、長距離が得意だという自分の気持ちに自信が持てないからです。結局、自己肯定感が持てないということは、自分に自信が持てないということ、それが消極的

な姿勢につながってしまうのではないのでしょうか。「誰かに自分の考えを否定されたら・・・。」とか「賛同してくれる人がいなかったら・・・。」という思いに囚われ、「人前で失敗したくない。人前で恥をかきたくない。」とそんなことばかりを考えていては自分の考えを押し殺し、誰かの真似をすることしかできなくなってしまう。

櫻坂46というアイドルグループの『サイレントマジョリテイ』という曲に「君は君らしく生きていく自由があるんだ」という歌詞があります。周囲に流されてしまいがちな私に、自分の道を突き進むことの大切さを訴え、自分のやり方で進めと背中を後押ししてくれるようなこの曲が私は大好きです。この歌を聴くたびに自分の道を大切にしよう、自分に自信を持って生きていこうと強く感じます。

謙遜が自己肯定感の低下につながってしまうのは、いつの間にか自己卑下に変わってしまっているからだと思います。表向きは「相手を敬う控え目な言葉」を口にしながら、否定的な言葉を使うことで自分自身をも否定してしまっているのです。自己卑下は、自分への自信を失い、自分の考えを行動に移せないことにつながります。本当の謙遜には、相手には控え目に振る舞いながら、心の中では自分のしたことや能力に自信を持ち誇りに思っている、そんな強い心があるはずです。

これからは自分に自信を持ち、褒められた時、否定的な言葉で謙遜するのではなく、たまには「ありがとう」とそのまま謙虚に受け入れていこうと思います。皆さんも自分の良さを素直に感じてみてはいかがでしょうか。

京都府青少年育成協会会長奨励賞

「ゲームから気づいた

勉強の大切さ」

舞鶴市立城南中学校 3年

水嶋 奈緒



私はずっと考えていた事がある。それは、「なぜ勉強する必要があるのか？」ということだ。

小学校では五年生の時から英語の学習が始まり、PTAの先生と一緒にコミュニケーションをとったり、勉強をしたりするのが楽しかった。しかし、中学校に入学してからは、難しい文法をたくさん覚えなくてはいけないし、単語も単元ごとにたくさん登場してややこしくなった。理科も、小学校の時は得意だったが、中学生からは化学や物理が登場し、ちんぷんかんぷんになってしまった。「正直勉強なんてしたくな

い。英語も理科も、大人になって使うことなんてあるのか？勉強したことは無駄じゃないのか？」そんな風に考えていた私だが、それが一八〇度変わった出来事が起こった。

休みの日にオンラインマルチゲームをしていた時のことだ。「一緒にゲームをしませんか？」という申請が届いた。私は何気なく許可したのだが、チャットを開いた瞬間、並んでいた英語に驚いてしまった。日本人だと思い込んでいた相手は、なんとフィリピンの方だったのだ。相手が何と言っているのかもわからず、次々送られる文を必死に翻訳して、拙い英語を返していた。そこで気づいた。学校で習ったことのある英文もあり、それを読むことができて返信できた時は、ものすごく嬉しく達成感があったのだ。今まで勉強してきたことは無駄ではなかったのだと、報われたような気持ちだった。

相手の人とは、フレンドにもなれた。フレンドとは、インターネット上で互いに申請し、個別のつながりを持つことだ。また、インターネット上で他人と一緒にいうマルチプレイが終わり、フレンドの人と別れたあと、勉強は本当に大切だと感じた。私がフレンドの人と関わっていくことに重要な「言葉」という壁を取り除いてくれたのが今まで役に立たないと感じていた「英語の学習」だったのだ。

それからは、苦手意識があった英語や理科にも、頑張っ取り組むようになった。勉強していくにつれて、勉強の面白さを実感できた。初めはわからないことや嫌になることもあったが、「学ぼう」という意欲をもって学習してい

くうちに、理解できることが増えた。すると、段々フレンドの人とコミュニケーションをとる事ができるようになり、ゲームがさらに面白くなった。その世界は「英語」を使うという楽しみのない世界であるにも関わらずだ。

「勉強」という言葉を辞書で調べてみると「学問や技芸を学ぶこと。経験を積んで学ぶこと。物事に精を出すこと。努力すること。」と出てくる。確かに、今回の経験で、私の勉強に対する価値観は変わった。「授業は受けるもの」といった何となくの考えから、「必要性」を体験できたからだ。これは、広く見ると、誰にでも当てはまる事ではないだろうか。例えば、「社会」だ。歴史を学ぶ上で「昔のことを習っても仕方がない」「覚えるのが大変だ」という声を、よく耳にする。しかし、その中でも私たちの生活に結びつく何かがあるはずだ。過去の出来事や人物の考え方などを知り、私たちがどのような社会を作っていくのかということを考えたり、生きていく上での「生き方」の参考になったりすることもあろう。

今回の出来事は、まさに辞書に載っている意味の通りであり、「経験を積んで学ぶこと」「物事に精を出すこと」「努力すること」である。実際、ある物事について知識だけがあるのと、それを実際に経験した事があるのでは、その重みは全く違ってくると思う。

今回の経験を、これからの人生に役立てていくためにも、日常生活の中の「気づき」を大切に、積極的な学びを継続していきたい。

京都市PTA連絡協議会会長賞

「考える力」

京都府立洛北高等学校

附属中学校 3年

森本 絢衣



これからの時代、私たちには「考える力」が必要だとよく言われます。私が今まで生きてきた中で、「自分で考える」という言葉を聞く機会は段々増えてきたように感じます。では、なぜ「考える力」が重要視されているのでしょうか。そして、「考える力」を身につけるためには何をすれば良いのでしょうか。

そもそも考える力とは一体どんなものでしょうか。二〇〇六年、経済産業省が提唱した「社会人基礎力」の中の一つに「考え抜く力」が掲げられています。そして、その提唱ではさらにこれを三つの能力要素に分けています。現状を分析し、目的や課題を明らかにする「課題発見

力」、課題の解決に向けた道筋を立てる「計画力」、新しい価値を生み出す「創造力」です。つまり、考える力とは自分の課題を見つけ、解決のためのプロセスを立て、新しい価値を生み出す力だといえます。

では、なぜ考える力が今必要とされているのでしょうか。それは、技術が発達してきた社会において、デザイナーやエンジニアなど何かをつくり出す仕事が目ざされているからです。クリエイティブな仕事には新たなアイデアを生み出す力が必要です。そのためには考える力を高めるべきです。また、AIが活躍する社会になってきているからとも考えられています。AIが得意なことは膨大なデータの学習や処理です。反対に、問題そのものを考えたり、ひらめいたりするのは不得意で、これは人間にしかできません。だから、AIと共存するためにはAIにはできない「考えること」を人間がカバーする必要があります。

さて、考える力がいかに大切か分かったところで、考える力すなわち課題発見力、計画力、創造力を身につけるためにはどうすれば良いのでしょうか。

まず、課題発見力を伸ばすためには、興味や疑問を持つことが大切だと思います。何事にも関心を抱くことで、新しい課題や目標を持つことにもつながります。

次に、計画力を伸ばすためには、名前通り事前に計画を立てることが大切です。研究する手段を選び、ゆっくり調べて考察する機会を作ると良いと思います。

そして、創造力を伸ばすためには、物事を多面的にとらえることが大切です。様々な視点か

ら見てみることで「新しい価値を生み出す」ことにもつながるはずです。

これらの考える力を身につけるために何が大切かを考えてみて、私は身近で特に考える力を高められるものがあることに気付きました。それはレポートです。

私が通う学校には「洛北サイエンス」という科目があります。洛北サイエンスでは、講義を聞いて科学に触れたり、自分で研究テーマを決め、調べたりします。講義を聞いた後、私たちはいつもレポートに講義で分かったことや追加で調べて考えたことをまとめます。私はこのレポートをふり返ってみて、考える力を身につけるのにとっても効果的な方法だと思いました。レポートには考え抜く力を鍛えるため、三つの要素が全てそろっています。学んだことをまとめ、さらに研究しじっくり考察まで行うことで考える力を高めることができます。

また、作文でも同じことが言えると思います。世の中に関心をもち、結論を出すために調べ、自分の考えをまとめるので、レポートと共通点が多く、考える力も鍛えることができます。

私はこれから、今までしてきた何事にも疑問を持ち、研究のプロセスを選び、調べた結果を多面的にとらえて結論を出すことを大切にしたいと思います。また、レポートや作文などを通して日常的に考えることを習慣化して、考える力をより鍛えていきます。物事を柔軟に考える力を身につけることができれば、常に変動する社会にも対応できるのではないのでしょうか。

京都府知事賞

「だったらこうしてみたら？
で夢は叶う」

京都市立桂川中学校 3年

太田 真行



みなさんは「どうせ無理」この言葉を使ったことはありますか？この言葉は人の自信と可能性を奪ってしまう最悪な言葉です。でもとっても簡単に楽になる言葉なのです。この言葉を使えば挑戦しなくてよくなるからです。「どうせ無理。どうせ出来るわけではない。」と、挑戦をしなくなりません。

これは他人事ではなく、身近にあります。僕の学校でもどうせ無理を耳にすることがあります。生徒総会を行ったとき。クラスで学校に対する要望内容を決めていました。僕たちの学年は入学し

た時からコロナの影響で様々な行事がなくなってきました。そこでこんな案が上がりました。

「今年は全学年で体育祭をしたい！」

しかし、こんな声も上がりました。

「どうせ無理でしょ。意見上げて実現したことなかったし、これ意味あるの？」

とつても悲しく心が痛くなりました。そして僕は「どうせ無理」という言葉をなくしたいと強く思うようになりました。

遡ること2年。僕はある方に出会いました。それは植松努さんという方です。植松さんはどうせ無理をなくし、だったらこうしてみたら？を広めるため、全国で講演活動しておられました。僕は植松さんのお話にとっても共感し、もつと沢山の

人にこのお話を聞いてもらいたい！と思いました。そして僕は一昨年の8月に植松さんの講演会を開催しました。子どもたちで大人でも難しいような事を0から作り上げ、成功させたのです。開催までには沢山の困難がありました。会場をおさえたり、講演の依頼やチラシ作り。やったことないことに挑戦し、沢山の経験を積んできました。無理かもしれないと諦めたくなった時もありました。ですが、困難を通して僕は気づきました。だったらこうしてみたら？で夢は叶うんだと。コロナの影響で会場での開催が出来ず、悩んでいた時。

「リアルが無理ならオンラインでしてみたら？」講演会はオンラインに変更し、無事開催できました。

また、学校では、コロナによってあいさつ運動が出来ず、悩んでいました。

「じゃああいさつと消毒をまぜてみたら？」そして僕はOHPUSHという活動を考え、実行しました。これはあいさつと消毒を同時に行うことで感染対策も挨拶もできる一石二鳥な活動なのです。

出来ない。無理。そこで終わるんじゃない。どうすれば出来るかを考えることが大切だと僕は伝えたいんです。どうせ無理と言って、諦めてしまふのは勿体ないです。やり続けることは大きな力になります。だから誰になにを言われても好きな事や夢を諦めないでほしいです。

学校では、今のところ体育祭を全学年で行う予定です。あの時どうせ無理と言って、提案しなければ全学年ではできなかったかもしれません。出来る可能性が少なくても諦めなければ未来はかわるかもしれません。思うは招く。思ったらそうなるよという意味です。

どうせ無理。どうせ出来るわけではない。そこで諦めないでほしい。だったらこうしてみたら？で夢は叶うんです。

ぜひみなさんも、だったらこうしてみたら？を使ってみてほしいです。そうすればきっとどうせ無理がなくなって、みんな夢が叶う素敵な世界になると僕は思います。

京都府PTA協議会会長賞

「私の宝物」

向日市立勝山中学校 3年

武田 ことは



二年六ヶ月、日数で表すと九百十日。これは、日本で国内初の新型コロナウイルス陽性者が確認されてから二〇二二年七月現在までの期間です。この間に多くの方が新型コロナに感染しました。大切な人を亡くした方もたくさんいます。そして私は、人生の一部を失いました。

コロナが初めて確認された二〇二〇年一月、私は当時まだ小学六年生で、上手く状況が理解できていないまま、どんどん自分の周りに変化が起きていったことを覚えていきます。いつもなら見えていた友達や自分の顔がマスクで覆われ、話し声と笑い声に溢れていた給食時間がみんなが立てる

食器の音しか聞こえない、静かな時間になりました。そして卒業間近の数ヶ月が休校になり、何回も何回も練習した合唱を卒業式で披露することはなく、約三分の短い卒業式を終え、私たちは小学校を卒業しました。

そんなコロナによる変化は中学校でも続き、休校による入学の遅れ、一二年連続の文化祭中止など、数え挙げればキリがありません。ですが、いつしかそんな生活も当たり前となっていた頃、私がコロナの影響を強く感じた出来事がありました。二週間の学年閉鎖です。学校からメールで知らされた時、ありえないことではなかったはずなのに、どこか油断していたのかすぐには飲み込めませんでした。一人一台学校に配布されていたタブレットを使い、先生方がHRや授業をしてくださっていました。しかし、その間の勉強に私はあまり集中できませんでした。そのうえ、つまらな

いとさえ思ってしまったっていました。そのときに私は「日常」が当たり前ではなかったと実感しました。休校期間が明け、友達やクラスメイトと会えた時、素直にものごく嬉しかったし、周りの人や友達に会える「日常」を前よりも大切にしたいと思うようになりました。気軽に会える時間、話せる時間が以前より大切なものとなり、それはコロナ禍が創り出した新たな価値ある物なのだと思います。

コロナ禍になってから「コロナ禍からの復興」という言葉をニュースで度々耳にするようになりました。その度に私は、ある一冊の本の中で震災で被災した方が言っていた言葉が頭をよぎります。「失ったものはもう戻ってこないんだから、

『復興』じゃだめなんだよ。」

復興という言葉は、壊れてしまったものを元に戻していく、という意味で、主に災害などが起きた際によく使われています。しかし失ったものが多すぎる場合、「復興」するのではなく、新しく創り出していくべきなのではないだろうか、そして、これはコロナ禍である今の社会にも言えることなのではないか、と私は思いました。まさしくWithコロナ、という言葉のように、コロナ禍前の社会の形に戻すのではなく、コロナと共存していくための新しい「日常」を考えるべき時代になってきているのだと思います。

そして昨年度、一つ上の先輩方は、「学校生活のうち二年間がコロナ禍だった卒業生」として、注目が集まり、ニュースでも報じられました。しかし、このままコロナが収束しなければ、私たちは中学校生活三年間、つまり全てをコロナ禍で過ごした、ということになります。小学校の時に憧れ、思い描いていた「中学生」では到底なかった。しかし、コロナ禍の学校生活でなければ、クラスメイトと同じ教室で授業を受けたり、テストの結果にみんなで一喜一憂したりするような、「日常」の価値にきつと気付かず過ごしていたはずで

す。私たちは、コロナに当たり前の中学校生活を奪われました。しかし、その奪われたものの中だからこそ見つけられた「日常」の価値は、数少ないコロナ禍での私の希望となりました。私は、今までの中学校生活で失ったもの、その代わりに得たもの、どちらも私自身の大切な宝物にして、自分自身で考え行動しながら、残りの中学校生活を送っていききたいと思えます。



第44回「少年の主張京都府大会」

講 評

本大会の講評を述べさせていただきます。

まずは、本日発表をされた中学生の皆さん、お疲れさまでした。皆さんは、府内各地から寄せられた多くの主張作文の中から、審査を経て京都府大会の発表者に選ばれました。このことは、高く評価されますし、この府大会の舞台に立った自分に、自信と誇りをもってください。

今日、多くの人の前で自己の主張を述べたことは、大変貴重な経験になったことと思います。また、他の人の発表を聴くことで多くのことを学べたと思います。皆さんの主張は、同じ年代の中学生のみならず、会場にいる大人を含めた全ての年代の人にも感銘をうけるものでありました。

さて、今回応募してくれた皆さんの主張は、社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案、友達との関わり、家庭や学校生活のこと、社会の様々な出来事に関することなど様々なテーマで中学生らしい視点や切り口で主張されている作品ばかりでした。今年の発表では、友達、家庭、学校生活、思春期の心の葛藤などの不変的なテーマの作品の他に、社会の状況を反映した、戦争や平和の大切さについて、新型コロナウイルス感染症についてなどをテーマとした作品も見られました。

どの作品もただ現状を伝えるだけではなく、現状をしっかりと考え、自分たちにできることや社会に向けての提言など、何を主張したいのかよくまとめられ、力強く未来を切り拓いていこうとする主張であり、私たちがハッと気づかされるような作品が多くありました。

中学生の時期というのは、自分の生き方や社会への関心が高まり、そのあるべき姿を模索し、自分の考えとしてまとめ、提言や提案をしようとする意欲が高まってくる時期でもあります。

また、今日発表してくれた皆さんの主張を聞いて感じたのは、主張の内容においてのみならず、話す速さ、間のとり方や抑揚、顔の表情や身振りなど、聞く人に自分の訴えたいことを効果的に伝えるためのプレゼンテーション力が大変素晴らしいと思いました。このことは、審査にも関わっています。

審査のポイントとしては、「中学生らしい感性で新鮮な主張であるか」、「新しい視点があるか」、「提案や提言を実現・実践する意欲が感じられるか」、「論旨が一貫し、構成がしっかりしているか」といった点や、「発表内容が共感と感銘を与えているか」、「説得力のある話し方であるか」、「話しぶりに熱意と迫力があるか」などをポイントとしました。

その中で、白熱した審査の結果、京都府知事賞を受賞された、京都市立桂川中学校の太田さん、本当におめでとうございます。

「だったらこうしてみたら？」という、みんなの夢が叶う素敵な世界を作っていくための主張は、とても表現力豊かで、素晴らしい発表でした。

今日発表してくれた皆さんが、この貴重な経験を糧として、それぞれの学校、地域で今後ますます活躍されますことと、皆さんの意見や思いを、ぜひ、これからの社会をよりよくするための行動に結びつけていってほしいと、心より願っています。

会場にお集まりの保護者の方、教育関係者やPTAの方におかれましては、本日の発表の様子や一人一人の発表の良さをご家庭や学校、地域で共有していただければと思います。

最後になりましたが、本日しっかりと進行を進めてくれた二人の中学生と事務局の皆様、「少年の主張京都府大会」に関わってくださった皆様に感謝申し上げます、私の講評とさせていただきます。

京都府教育庁指導部学校教育課

総括指導主事 福田 昌弘

「少年の主張全国大会」

くわたしの主張2022く

内閣総理大臣賞受賞作文

あなたの声、心に届け

山梨県 北杜市立甲陵中学校 三年

前橋 真子

「真子ちゃん、きょうだいいるの？」
「妹と弟がいるよ。」「妹かあ。羨ましい。」
羨ましいなんて……。私は妹の存在を口に出すのをためらうことがあった。
私の妹は生まれつき音が聞こえない重度難聴だ。左耳に音を増幅させる補聴器、右耳に脳に音の信号を送る人工内耳を付けている。発音も上手ではない。私が小学生のとき「妹、障がい者なのに元気だね。」と友達に言われた。なんとも言い表せないモヤモヤが私の心に渦巻いた。障がいのある妹が明るく元気なのは普通のことではないと思い、恥ずかしさを覚えた。そしていつの間にか妹のことを口にするのも、一緒に出掛けるのも辛くなった。
この春中学校入学を控えた妹は、補聴器を新調した。私も一緒に店に行った。そこには色とりどりの補聴器が並んでいた。お店の方は、好きな色を選ぶよう言った。

私は「真紀ちゃん、黒か茶色を選んだら？」と勧めた。強く勧めた。黒か茶色なら髪の毛と同調して、あまり目立たない。みんなと変わらない見た目でいられる。恥ずかしい思いをしなくてすむように、何度も言った。しかしそんな私を見て妹は言ったのだ。「誰になんと思われても、これは私の耳なの。私は黄色い補聴器の私を見てもらいたい。」妹に言われてハツとした。障がいにかかわっていたのは私自身だったのだ。
聴覚障がいのある妹が、明るく元気なのはおかしいのか。いや、妹は妹だ。妹が笑顔を決やさないのは、今まで本当に沢山の努力をしてきたからだ。私と同じ小学校に行くために、人工内耳の手術を受け、手話が無くても友達と話せるように病院やろう学校に通って、発音練習を頑張っていた。誰にでも優しいのは、自分がされて嫌だったことや辛かったことを痛いほどに知っているからだ。私は、今まで辛くて、悔しくて泣く妹を何度も見た。でもその度に努力してハンディキャップを乗り越えていた。そんな妹の努力を一番近くで見ているのは私だ。障がい者というフィルタを通さず、ありのままの妹を見て欲しい。手話や口話、筆談、テレビの字幕も全部、社会と繋がるコミュニケーションツールの一部だ。それが妹の全てではない。
聴覚障がい者は、一度見ただけでは耳が不自由かわからず、接し方に戸惑うことがある。でも耳の不自由な人がみんな、

相手に手話を望んでいるわけではない。聴覚障がい者が困っているときは、その人の正面から「何か手伝えることはありますか。」と口を大きく開け、ゆっくり話しかけてほしい。
「思いやりのある言葉は、たとえ簡単な言葉でも、ずっとずっとこだまする。」これは貧困や病に苦しむ人の救済に生涯を捧げた、マザーテレサの言葉だ。心のバリアフリーの精神を表している。まずは聞こえないことについて知ろうとしてほしい。その思いやりでどれだけ救われる人がいることだろう。
妹は毎日黄色い補聴器をつけ、お気に入りのテニスラケットを持ち元気に登校している。先日友達に「妹さん明るくて、部活のムードメーカーで、頑張っているよ。」と言われた。ありのままの妹を見てくれていると分かり心が温かくなった。そんな妹は私の誇りだ。
私たちにできることには限りがあるかもしれない。それでもあなたの身近にハンディキャップを持つ人がいたなら、そのハンディというフィルタ越しではなく、その人自身や心に寄り添ってほしい。障がいのある人への理解が進むことで、一人またひとりと笑顔が増えていくと確信している。
妹の耳に、あなたの声は聞こえないかもしれない。でも、あなたの気持ちは妹の心に確実に、届いている。

■作文募集 チラシ・ポスター■

第44回「少年の主張京都府大会」
 <開催日> 令和4年9月23日(金・祝) <会場> 本願寺園法会館(多目的ホール)
 中学生のみなさんへ
作文募集!

「少年の主張京都府大会」は、少子高齢化、国際化、情報化が急速に進み、環境が目まぐるしく変化する現代社会において、次代を担う子どもたちは、心身ともに健康で物事を思いやる心をもち、社会的に自立している、健やかな成長が求められている中、広い視野と柔軟な発想や創造性などと共に、物事を論理的に考える力が求められる。物事を深く理解し、自分なりの主張を正しく伝え、理解してもらう力などを身に付けることが大切であり、子どもたちにとって、これらの契機となることを願っています。

※応募締切(必着)
 令和4年
8/1(月)

※応募については、京都府青少年育成協会のホームページをご覧ください。

主催 公益社団法人京都府青少年育成協会
 〒600-8004 京都市上京区大石町1-1-1 本館4F 京都府青少年育成協会2F
 TEL:075-747-3333 FAX:075-747-3333 E-MAIL:kyoto-seishonen@kyoto-seishonen.or.jp

主幹 公益社団法人京都府青少年育成協会 京都府青少年育成協会 京都府青少年育成協会 地方自治体青少年育成協会等

※京都府青少年育成協会HP: <http://kyoto-seishonen.or.jp/>

大会の様様を **You Tube** でご覧いただけます。

第44回少年の主張京都府大会
 2022.9.23

0:02 / 1:36:26

公益社団法人 京都府青少年育成協会 HP からご覧いただけます。
 URL <http://kyoto-seishonen.or.jp/>

公益社団法人 京都府青少年育成協会は、

昭和 42 年に当時の府政の基本的な方針に沿って、京都府青少年育成協会の前身、「青少年育成京都府民会議」を結成し、青少年育成府民運動を進めることとなりました。(昭和 44 年 9 月 27 日付で社団法人に、平成 25 年 4 月 1 日付で公益社団法人に移行)

平成 29 年 9 月、協会創立 50 周年を記念して制定しました、青少年健全育成府民運動スローガン「気づいてる？ あなたのまわりの あたたかさ」のもと、「明るい家庭と地域の輪が育てる心豊かな青少年」を合言葉に青少年をあたたかく見守り、その健やかな成長を支援する健全な社会づくりを推進するため、官民一体となった青少年健全育成府民運動の活動を展開しています。

また、京都府立青少年海洋センター及び宮津市 B&G 海洋センターの各施設について、京都府及び宮津市から指定管理者の指定を受けて管理・運営しています。

正会員・賛助会員の募集 (入会の御案内) 青少年の健全育成に、是非とも、あなたのお力をお寄せください。

《正会員》青少年活動を支援し、推進していただける団体・個人の方(総会への参加を通じて、事業計画の決定に参加していただけます。)

■年会費 (団体)年額 3,000 円(個人)年額 2,000 円

《賛助会員》青少年育成活動に感心があり、資金面で支援していただける団体(企業)・個人の方

■年会費 (団体・企業・個人)年額 2,000 円 1 口以上

【入会方法】(公社)京都府青少年育成協会まで御連絡ください。

TEL075-417-0602 FAX075-417-0603 e-mail kpyda@cello.ocn.ne.jp

【会員の特典】 ■協会広報誌「わかもの京都」の送付
■「少年の主張京都府大会」・家族ふれあい大賞「明るい家庭づくり(家庭の日)絵画展」の作品集の送付
■「京都府青少年すこやかフォーラム」の開催案内をはじめ、青少年に関する情報の提供(随時)

青少年育成府民運動のネットワーク

青少年関係行政機関

- | | | |
|---------|------------|------------|
| ◇ 内閣府 | ◇ 京都府 | ◇ 市町村 |
| ◇ 文部科学省 | ◇ 京都府教育委員会 | ◇ 市町村教育委員会 |
| | ◇ 京都府警察本部 | |



(公社)京都府青少年育成協会

構成団体(会員)

◇青少年育成市町村民会議

※青少年の健全育成や非行防止のために活動を行う市町村単位の青少年健全育成活動推進組織を「青少年育成市町村民会議」と呼んでいます。

◇青少年(育成)団体

青少年をあたたかく見守る地域社会づくり
青少年の健やかな成長への支援

泣いている赤ちゃんを、私たちは
あたたかく見守っています

WE ^{ラブ} 
赤ちゃん
プロジェクト

公共の場で泣いている赤ちゃんを一生懸命あやすママパパたちに
「泣いてもいいよ!」と温かく見守る活動をしている「WEラブ赤ちゃんプロジェクト」
京都では『子育て環境日本一』の実現に向けてオール京都体制(京都府子育て環境
日本一推進会議)でこの活動を広めていきます

泣いても
がましへん!

京都限定
ステッカー配布中!

身近な配布場所が順次拡大!こちらから検索!
WEラブ赤ちゃんプロジェクト 京都

※数量に限りがあります。

子育て環境日本一の
京都の実現を目指しています!
推進会議では、出会い・結婚から妊娠・出産・
子育て・保育・教育、就労に至るまで、社会全
体で子育て世代をあたかく
見守り支える「子育て環境日
本一」を目指して、さまざまな取
組を進めています。

WEラブ赤ちゃんプロジ
ェクトはあなたの賛同
を得ています!

京都府子育て環境日本一推進会議 × Woman.e³cite

公益社団法人京都府青少年育成協会は、「京都府子育て環境日本一推進会議」に参画しています。

京都府立青少年海洋センター
マリノピア

YouTube で施設見学できます

住所 京都府宮津市田井 382 電話 0772-22-0501

青少年団体から一般団体・各種サークル等にご利用いただけます。
★自主事業 家族利用 Day では、ご家族での利用も可能です。

公益社団法人 京都府青少年育成協会

京都市上京区出水通油小路東入丁子風呂町 104 番地の 2 京都府庁西別館 3 階
TEL 075-417-0602 FAX 075-417-0603 e-mail kpyda@cello.ocn.ne.jp
URL <http://kyoto-seishonen.or.jp/>

